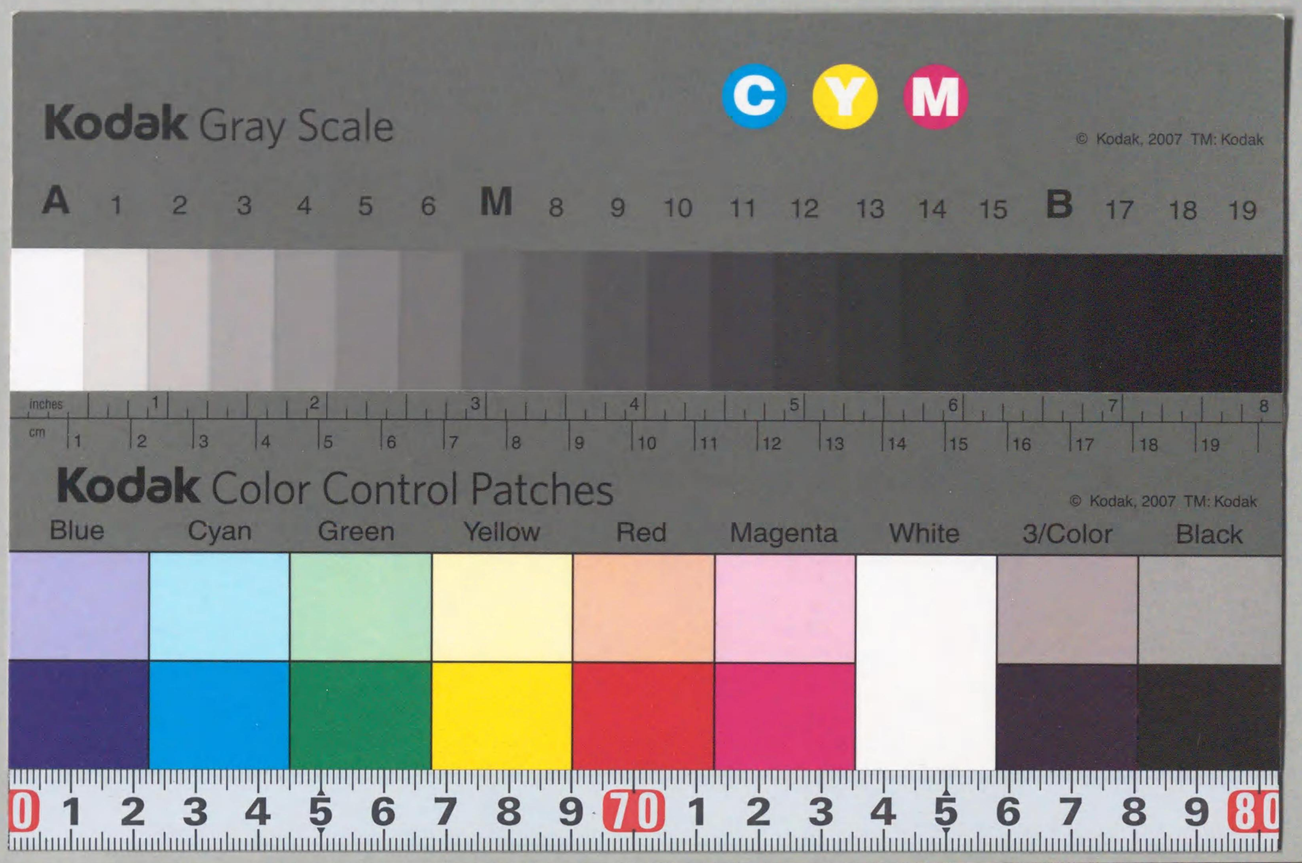
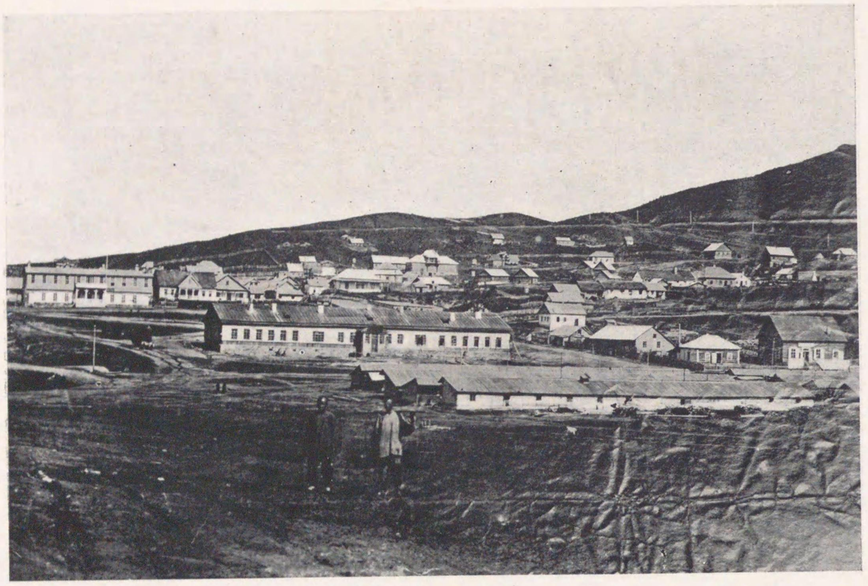

Kodak Gray Scale
C Y M
© Kodak, 2007 TM: Kodak
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19
inches 1 2 3 4 5 6 7 8
cm 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19
Kodak Color Control Patches
© Kodak, 2007 TM: Kodak
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80

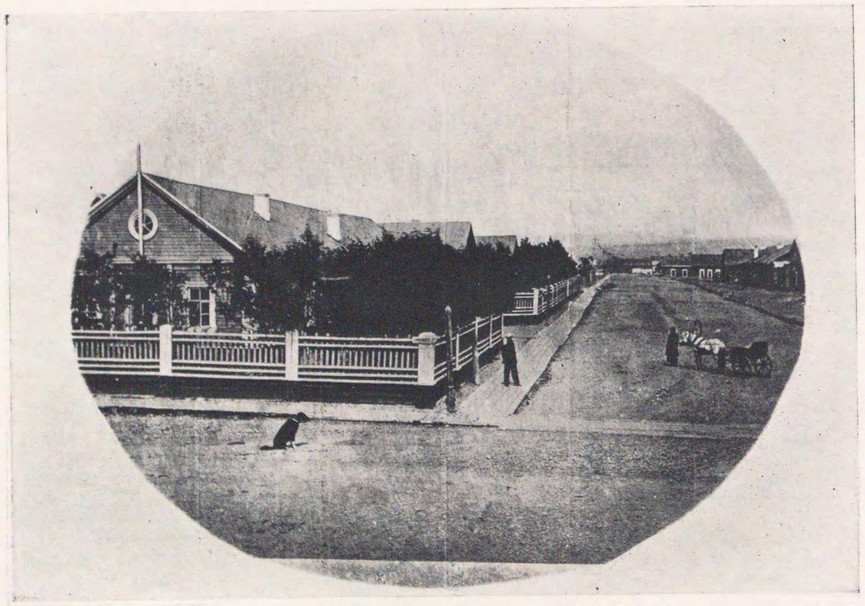
292.23
E76s

西伯利亜日記(寫)

巻之貳



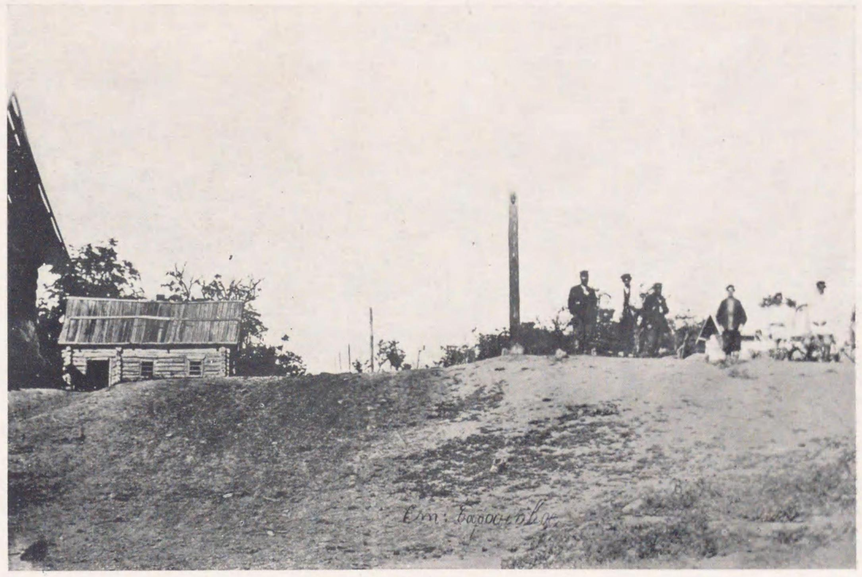
街　市　鹽　浦



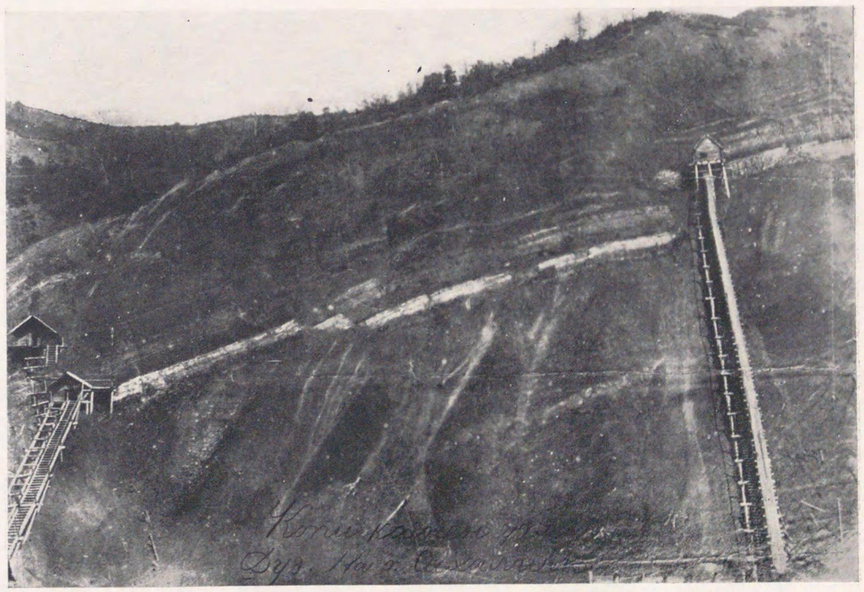
リ通「ヤカスウーパロトペ」ルケ於ニ「コスフエラコニ」

国立国会
27. 3. 4
図書館

261505



（ノ馬）驛「フノラバ」



棒太ニ於ケル石炭坑

朝来天気未晴細雨霏々ヲ貴酒屋ヲ「マデラ」ヲ発シ黒龍江ノ流ヲ来リシモノヲ僧ニ優八十「コペーキ」ヲ

荷物ハ積入ノ前ニ不残船ヘ送了ノ目方ヲ試ムルヲ一「プード」ト唱ヘ船客ノ自由ヲ其儘ニ

皆目方ニヨリテ運賃ヲ払フベキヲ

船賃ハ上等六十「ルーブル」五十「コペーキ」中等三十「ルーブル」五十「コペーキ」ヲ是レ「ポスト、ボート」ニテ通常

自由ニテ其価ハ一「プード」毎ニ二「ルーブル」ニ「コペーキ」ヲ是レ荷物ヲ汽船ニ引行クヨリ

荷物船ハ逆潮ニテモ一「プード」ニ付一「ルーブル」少許ニ過ギ是荷物ヲ汽船ニ引行クヨリ

十一時ニ館主ノ午食シ呉ラレシ事ヲ謝シ別ヲ告ケ十二時ニ発船乗客ハ上等ニ三人下

等ニ七時「ウスカヤ」村ニ泊スルカ右岸ニアリ是ヨリ三十「ウヨルスト」許ノ処ニ帝家ニ属

ル沙金場アリ罪人七千人モ働クト云フ独乙ノ商人ニ語ヲ云フ「ポール」ノ罪人モ此中ニ

アリト又ケラント「カピテン」云フ此沙金場ハ二十年余前ヨリアリト

途中汽船ニ屢〻見ルヿアメリカ」ノ「システマ」ナル外輪船ナリ
「ウスカ」村ヨリ電信有ルヲ以テ左ノ電信ヲ金八ニ遣セリ

Enomoto Kimpati Saimusho Tokio
I left for Vladivostock to-day. Middle October will be
home. Frank Kuroda. All well.
Enomoto.

別帳ニ續ク（以下再ビ大型帳ニ記載）

九月十三日續キ

甲安丹云フ「ストレチェンスク」ヨリ「ハバロフカ」迄ハ航路貳千零拾六「ウルスト」ニシテ十日ニテ充分到着スヘシ又「ストレチェンスク」ヨリ「ブラゴウェステンスク」迄ハ紙路壹千弐百「ウルスト」ナリ逆流ノ件ハ「ハバロフカ」ヨリ「ストレチェンスク」迄ハ十六日ヲ要スト我等ノ乗組レル汽船ハ長サ壹百三十「フート」幅十六「フート」四十馬力（「ノミナル」）ノ高圧力ナリ

別帳ニ記セル如ク我等「ウスカ」村ニ泊舟シテ電信ヲ英文ニテ日本東京迄出ダセシニ晩食中使者帰来云フ魯文ニアラザレバ通ゼズト於是「アルバテン」見合スルヿニ決セリ

別帳ニ記セル前駅沙金場ノ模様ヲ正スニ左ノ如シ

「ウスカ」駅ノ附近ニ沙金場四ヶ所アリ共ニ帝家ノ所有ニシテ之ヲ洗フ機械ハ六個ニシテ共ニ水車ヲ用ユ此ノ水ハ基ダ少キヲ以テ往々ヲ休業スル時アリ其一ヶ所ハ駅ヲ距ル十五「ウルスト」、其二ハ十九「ウルスト」、其三ハ二十四「ウルスト」、其四ハ二十九「ウルスト」ニ処ニアリ人夫ハ平人

八百人罪人六百人許り四ヶ所ニテ一ヶ年採ル処ノ金ハ約貳拾五万「ポード」ニ付キ金一「ソロトニク」タリト云フ此沙金場ハ世五年前ヨリ開採スル所ニ係ルト云フ

「ウスカ」村迄ハ罪人ヲ流ス処ニテ五ヶ所ノ獄アリ而シテ「ウスカ」駅モ一個ノ沙金場ノ一役ヲ「アルグン」河（支那所謂庫倫河）ニハ沙金場甚タ多シ左岸ハ魯領ナルヲ以テ開採ニ従事スト雖支那領（即チ右岸）ノ下ハ下手スル者ナシ故ヲ以テ魯人往々密カニ支那領ニ入リ倉金ヲ穿チ木皿杯ヲ以テ小洗スル者アリ云々

「ウスカ」駅附近ニアル罪人ノ数ハ大約并テ三千人ナリト云フ

○

船頭云ヘラク「アムール」汽船社ハ千八百七十一年ヨリス而シテ「ウスリ」河ノ汽船モ同社ノ所有ナリ汽船ヲ有スル現ニ并セテ十六艘タリ七十一年前ハ政府ニテ汽船十艘ヲ有シ航河セシガ入費過大ナルヲ以テ同社ト約ヲ立テ船ヲ譲リ且ツ左ノ掟ニ従テ保護金ヲ与フルコトナレリ

「ストレチェンスク」ヨリ「ニコライエフスク」迄順流十五日ヲ以テ限日トス若船モシ此ノ日限ニ後ル、時ハ毎日貳百「ルーブル」ノ罰金アリ「ストレチェンスク」ヨリ「ハバロフカ」迄八日数九日（順流）ナリ

政府ヨリ毎年「アムール」社ヘ遣ス保護金ハ二十五万「ルーブル」ナリ而シテ同社ハ毎年政府ヘ物品参万五千「プード」ヲ無賃ニテ運輸セザルベカラズ、モシ年ニ寄テハ荷物ノ量ニ数ニ至ラサルモ保護金ノ下ケ方ハ減スルコトナシ

郵便ハ「ウルスト」ニ付二「ルーブル」十五「コペーキ」ヲ政府ヨリ社ヘ拂フナリ

兵卒ヲ乗船セシムル時ハ政府ヨリ同社ヘ通常ノ船賃ノ三割ヲ與フ

○、我等ノ乗組ノ汽船ハ「ハンビエルグ」ヨリ機械並ニ船材ノ大部分ヲ取寄セ六年前「アムール」ニテ組立テタルモノニシテ積ハ約四百万「ポーブル」貴ヘタリト云フ船ノ長サ百三十「フート」、幅十六「フート」、食水弐「フート」半、馬力八

ナル）四十ヤード、而シテ「シルカ」及黒龍江ヲ下ル時ハ其疾サ一時間約二十「ウェルスト」、逆流ニ
一時間約八「ウェルスト」ヨリ十「ウェルスト」タリト云ヲ順流ニ如斯ノ遅キハ畢竟河流ノ
疾キト屈曲多キニ因テ殊更ニ陰行スルニ堅セリ
○予船艫ニ立テ「シルカ」河流ヲ諦視スルニ河幅ハ「アムール」ニ達スル迄大抵到処我五十
間ヨリ七十間ニ過ギズ流ハ「ヲワ」河位ノ疾サナリ澪筋ノ深サハ五尺ヨリ八九尺迄ニテ
此ノ「シルカ」河中ハ水夫ノ人船傍ニ立テ水ノ深サヲ報ス其「デープロード」ハ長サ十尺ノ棒ニ毎
尺ノ印ヲ付ケ棒ノ先ヘ綱ヲ結付ケタルモノナリ但シ他ノ一方ニハ鉛ヲ付ケタルベキヲ論ナシ
○「シルカ」及ヒ黒龍江ヲ航スル汽船ハ外ニ十六艘アリ共ニ各個商人ノ私有ニ係ル
故ニ目下「アムール」ヲ航スル汽船ハ「アムール」社ノ汽船ヲ并セテ都合三十二艘ナリト云フ
但シ「アムール」社ノ船ハ魯暦ノ一日ト十五日ニ纜ノ解クルヲ以テ定日トス
○予「シルカ」河ノ黒龍江ニ達スル迄ノ間ニ屈曲甚タ多ク一道ノ澪筋太抵僅ニ一
「ウェルスト」半ヲ過ルノ者稀ナリ五「ウェルスト」以上ノ長サヲ見ルコトナシ之ヲ船艫ニ乱スニ斯
ル長サハ「シルカ」中ニ無之黒龍江タリトモ長サ十「ウェルスト」ニ至ルモノハ絶無而僅有モノ
ナリト咎ヘタリ
○新ハ通常魯国ノ航河船皆皆河辺ニ生ズル松ヲ用ユ
十四日　竟日雨天時々浮陰トナルアリシ
拂暁四時頃ヨリ機械ノ鳴ズル声ヲ聞キシガ稍久シクシテ止ノ六時半ニ起キタル件ノ船
再ヒ運転中ナリシ之ヲ船艫ニ問フニ小駅ニ於テ薪ヲ買足ス為ナリト
渠ノ薪ヲ買ズル為ニ夜ヲ連シ来リシ故ナリト答ヘタリ朝九時半頃右岸ノ小駅ニ船
ヲ止メ薪ヲ積ム処ヲ予ニ付添ヒ来リシ「イスプラウニク」ハ登陸セリ渠ハ「アルバデン」
迄予ヲ送ル筈タリシヲ予辞退シタルニヨレリ此ノ村ヨリ「ストレチェンスク」迄ハ車路ナシ
故ニ馬上ニテ細道ヲ従来スルナリト
電信局ノ役人正服ニテ予ヲ訪ヒ用向ノ有無ヲ問フ予行テ一見スルニ「モルセ」季仕掛
一座アリタリ

朝七時ヲ九時頃迄寒暖計列氏五度半午七度許ニテ穏キ夫ヨリ夕五六時再ビ
五度半ニ下リ机ナキヲ以テ格別寒カラズ意日河流並ニ川幅両岸ノ様子皆替ル
コトナク但シ左岸ニ折節農家ヲ見ル右岸ニハ甚タ稀ナリ岸ノ高サハ左右互ニ交
換シテ高低ヲ為シ而シテ共ニ七八丈ヨリ十五丈ヲ過クルモノナシ山上皆白樺青松
ノミナリ岸ハ「フルハルデケレイ」ノ岩ナルヲ以テ河中ニ沈木ナシ之ヲ甲必丹ニ尚フニ「シルカ」モ
黒龍江モ共ニ深筋ニテ実ニ一見シテ其ノ necessaire ヲ知ルニ足レリ是
一大幸河ト称スヘシ本日一ノ渉所ヲ経過スル水ノ深サ五尺半ヨリ六尺ニ過キズ甲必丹云ノ洵
水ノ時ハ三尺ニ至ルト夕七時一小村ノ前ニ泊舟ス

十五日

本日ハ早朝黒龍江ニ入ル由ナルヲ以テ朝六時ヲ起キ甲板上ニ立テリ七時ニ黒龍江ニ
入ル黒龍江ハ即チ「シルカ」河ノ下部ヲ為スモノニテ則河ニアラズ尺「シルカ」河ニ「アルグン」
ノ落ツル処ヨリシテ「アムール」ト名ヲ負フヨリ甲必丹云ク「アムール」トハ蒙古語「メンドモール」ヨリ
今レ来リシモノニテ「シルカ」ト「アルグン」ニ河出逢ヒ機見克ト云ヲ義ニ取リシヨリ云々是ハ言ヒ
得人ノ事ニテ甲必丹ノ私考ニハアラザル「シルカ」河ノ「デルター」ノ左岸（即鲁領）ニ小屋五六軒アリ之ヲ
ノ幅是迄ニ二倍ス「アルグン」河落合ノ処ハ「シルカ」河「ハストストレルカ」村ト云フ少シク進デ「シルカ」
「シルカ」ヲ「アムール」ト名付ク「アムール」河ノ右岸ハ「ハバロフカ」迄支那領ニテ左岸ハ鲁
領ヨリ是レ「ムラビヨフ」氏「アイグン」城ノ始メ amur signifie grande riviere ヒキ語ヨリ出テタルベシ
備我カ船モ黒龍江ニ入リタレハ何トナク家郷ヘ一歩近ヅキシ心地セリ其ノ年来黒龍
江ノ名ヲ聞キシコト久シカリシガ今日自ラ流ニ順テ下リ宿志ヲ遂クルヲ待タレバ予カ悦ビ知
ルベシ河幅ハ「シルカ」河ヨリモ殆ト二倍シ其ノ深サモ彼ヨリ深ク屈曲モ彼カ如ク短カ
ラズ只今迄見シ所ニハ我一里餘ノ深筋アリタリ両岸ノ地質ハ是迄ト更ニ替ラズ
樹木モ白樺ト青松及樅等ナリ両岸共ニ巨大ノモノナシ白樺
ノ葉既ニ黄色ニ変ゼシヲ以テ時候ノ既ニ寒ニ近ヅキシヲ見ルベシ白樺ノ小樹ハ美

た紅葉ヲ為シテ我邦ノ楓葉ニ似タリ支那領ニ方ニ人ノ三四人岸ニ沿フテ歩スルヲ見ル是ニ恐クハ満洲人ナラントテ眼鏡ヲ以テ之ヲ瞥視セハ魯農民タリシ又支那領ノ方ニ林草ノ乾シタルトヲ小家(無人)ナドアルニ符キ之ヲ問フニ魯民ハ支那領ヘ往々夥多ノ時ノ者モアル由支那領ハ「サガリン」ニ近ハ村落ナシト云フ黒龍江ノ如キ良河ヲ葉ヲ魯ニ取ラレシモ遠ニ掛ケズ且ツ此国境ヲ支那役人見廻ルナド絶テ無ヲ由左モアルベシ予思フニ境界ノ画サヘモ有ルカ無キカ知ルベカラズ案ノ毒ナル者ナリ然レ共黒龍江魯ノ有トナリタルニ付キ我茅及開他北界一般ニ電信並ニ汽船便ヲ待時日ヲ刻シテ直通ヲ待ルニ至リシナリ若シ依然支那領タラレバ所謂天物ヲ曝テ殊スルモノニテ世界一般幸福ノ用ヲ為サヽルベキ言フヲ待タズ支那所謂楚材晋用トハ此ヲ謂也是ヲ以テ推セハ別帳ヲ述ベシ如ク「チルチンスク」領ノ「ツルハイツイ」ヨリ「ブラゴウェチンスク」迄東方一直線ノ地ヲ程遠カラズシテ魯領トナルベキヲ始ド疑ナシ迄ル時ハ我日本ノ魯トノ電信ノ便ヲヨリシテ「インヂレクト」ニ貿易ノ利迄モ起スノ便ヲ興ツベシ支那ノ古聖孔夫子ハ二千五百年前朽木ハ彫スベカラスト云置キタリ夫子自ラ自国ノ(猶)来ヲ言前テヒコノ地下ニテ本意タルベシ

○「アルグン」河ノ黒龍江ニ入ル処ヲ「ストレチエンスク」ヨリ「パフロフカ」駅即チ黒龍江ニナリテヨリ三十八「ウョルスト」ニシテ左岸ニ一河流レ入ルヲ尼猿(アマザル)河ト云フテ逆流入スル伍ナリ故ニ汽船ナド航入スルヲ得ズ

午後六時「ジェレンヂンスク」ト云フ処ニ舶ヲ停ム是処ハ上(ウェルフニ)「アムール」社沙金場ノ役所アル処ニシテ家屋ハ木製ナレ共概ネ甚タ華美ナル「アムール」中第一ナリト云フ「アムール」河岸ニ斯ル場所アリトハ真ニ意外ナリ家屋ハ五六軒ニ過キサレ共道幅モ正シク並ニ隊中ニ開化ヲ尊ヒ現出セシモノナリ此処ヨリ壱百八「ウェルスト」奥ニ合社ノ沙金場アリ即チ予カ所持ノ「アムール」地方沙金場ノ書ニ載スル一所ナリ合社ハ此処ノ北ニ向ホ

261595

明日往過スベキ「チュルナユリ」ト云フ駅ノ奥ニモ沙金場ヲ有セリ是ハ昨年ヨリ開掘セシモノニテ昨年ハ金十八「プード」ヲ得タリ本年ハ二十「プード」ヲ得ル見込由備金社ノ「ジュレンデンスク」村ノ奥ニ有スル沙金場ハ「ジュレンド」ト云フ小河（即チ「ゼヤ」河ニ入ル一小河ナリ）ニアリ故ヲ以テ此処ヲ「ジュレンデンスク」ト名付シ也予同行ノ独乙人同道ヨリ登陸セシニ同氏ノ但相識ナル英ノ「インシュニール」社ノ役所ニ至リ「メチーチュル」（魯人ナリ）ニ面会シ沙金場ノ圖並ニ金粒ヲ一見セリ粒ハ細キ方ナリ故ニ良好ナリトス大粒ナル者ハ舐夫ニ盗マレ又ハ「クワルツ」ヲ含ムノ害アリ之ヲ「マチージュル」ニ問フニ曰ク会社ノ「ジュレンド」河沙金場ハ「ツルコ」ノ拿サ平均三「アルシン」、含金土ノ拿サ二「アルシン」ニシテ金ノ分量ハ百「プード」ノ含金土ニ平均一「ゾロトニク」ナリト（但シ予カ所持ノ書ニ載スル三「ゾロトニク」餘云々ハ過大ノ疑ナキ能ハス且其書中ニ足ラサル表ヲ補ハン為メ左ノ数ヲ聞得タリ

千八百七十六年金ノ出高　壱百四十一「プード」二十六「フント」

同　七十七年ハ　壱百三拾七「プード」二十六「フント」

「インシュニウル」云ク会社ハ沙金場六ケ所ヲ有セリ共ニ水極少ナキヲ以テ蒸気機関ヲ用ユ然レモ金ノ水洞ノ内ハ休業セサル可ラサルヲ以テ此時ハ「トルコ」ヲ取除クニ従事セシムト云ヒ又云ク同社ハ沙金場ノ為メ毎年十二万「プード」ノ「オーツ」ヲ「プラゴウェスチンスク」ヨリ取寄スルト又云フ同処ノ沙金場ハ五月十五日（魯暦）ヨリ始メ洗金ハ九月十五日ニ終ルト又云ク会社ハ金及他ノ要品ヲ運輸スル為メ汽船四艘ヲ有シ中ニ壱百馬力ノ汽船一隻アリ是ハ食水三尺ナリト予此揚リ場ニ於テ汽船三隻ヲ待タリ中ニ隻ハ「アリトルシキップ」ニ車輪ヲ付ケタルモノナリ（アメリカンセレテム）式ノ「インセニウル」ハ曽テ黒龍江通航汽船ノ甲必丹タリシ由自ラ語テ曰ク「アムール」ハ漕筋ニ絶テ岩ナシ船ヲ擱スルトモ沙故ニ大患ナシ渋水処ハ水三尺ニ至ルコトアリ「チュレンデンスク」ニハ電信局モアリ又是処ヨリ一「ウヨルスト」許ニテ彼ノ有名ナル「アルバジン」駅ノ前ニ泊舟ス夕七時同所ヲ発シ十八九「ウョルスト」進ミテ

千時夜已ニ暗黒ニシテ四方ヲ眺ムル能ハス只泊舟処ノ一小島アルヲ見ル是
ハ往年魯人ノ支那奪ヒシ処ナリ
「アルバチン」ハ家数二三百軒モアル村ナリト云フ同所ノ電信局長我カ舶ニ来リ用
向ヲ問ヒ且ツ電信局ヲ一見センコヲ乞フ乃チ登陸シテ其家ニ至リ先ツ電
信局ヲ訪フニ「モルセ」ノ仕掛五個アリ乃チ左ノ電信ヲ子息金八ヘ遣ス

Enomoto Kinpati Taimuthio Tokio,

left for Vladivostock yesterday October will be home. Thank kuroda.

Enomoto.

右二十語ニテ十三「ルーブル」ナリ又「ウラヂオストク」碇泊ノ開拓使箱館丸ノ鈴木大助
子ヘモ二十語ノ電信ヲ遣シ以テ我子一昨日ヲ以テ「ストレチンスク」ヲ発シ来ル十九日
ニハ「ハバロフカ」ヘ着スベキ旨ヲ為知タリ代価ニ「ルーブル」タリ

夫ヨリシテ局頭婦及娘子息等ニ面会シ待遇甚ダ懇ナリ
予カ来駕セシヲ祝セリ「ソサイチイ」ハ実ニ亜細亜風ノ帯ヲリ局頭夫婦ハ
「ヒンランド」人ニシテ「セバストポル」戦ニ子ヲ亡ヒタリシ旨ヲ予ニ語リ且ツ日本武官ニハルヲ
待バ幸甚ナル旨ヲ予ニ再度迄乞ヘリ久之予遂ニ別ヲ告テ帰舶ス
此ノ泊舟所ノ処支那領ノ方ハ高シ電信局ハ約五十尺ノ高所
ニヲリ「アルバチン」駅ハ泊舟所ヲ三「ウルスト」ノ尖ニアリト云フ予電信頭ニ電信
線所在ヲ問フニ「アムール」ノ左岸ヲ十「ウルスト」乃至十五「ウルスト」ノ処ニアリト云フ
然レドモ連年水害アリテ秋八月及雪解ノ出水ノ時ハ水勢ニテ七八「サーゼン」
ヲ十「サーゼン」ニ及ヲ澤ノ如キノ処モ皆渺々タル水トナルト云フ
因ニ云フ本年六月「ウスリ」地方ノ出水ハ魯村モ浸サレ溺死セシ者頗ル
多ク支那ノ方ニテハ穀物ノ害セラレ餓死セシ者二百人アリシト魯ノ方ハ
手立行届キテ餓死セシ者ナシト○「アルバチン」ノ史ハ Russian の Amur

本日ハ昨日ヨリモ暖気ヲ覚ヘ寒暖計ハ午前九時ハ七度午後モ右様之ニ同ジ
午前七時ヨリ午雨霏々〇午飯小「ロシヤ」ノ乗人(乞食ノ類)三女子船ニ集祖
居セリ)ニ其楽ヲ奏セシメ一等ノ客各々「ルーブル」ヲ与ヘタリ其子ノ踊リ甚ダ観ルベシ
本日碇泊セシ「アムール」河幅我カ一町ヨリ二町半ニ至リ澪筋ノ直線ハ往々
我カ二十町ヨリ一里ニ至ル者アリ水モ深キヨシ一等「ロード」ヲ入レズ
電信局ヨリ帰船セシ頃ハ雲アリト雖天少シク晴レ星屢ヒ天風ナクシテ和
極メテ静カ

〇本日汐待タリ「アルバチン」ヨリ五十一哩ノ処ニ「ベトノワ」村アリ茲ヲ
奥ニ「ブルガリー」ト云フ小河アリ「ブーチン」氏ノ明年ヨリ取掛ラントスル沙金
場是ナリト

十六日　快晴

朝六時前ヨリ解纜シタレドモ霧ヲ含ミテ「ベトノワ」村及他ノ小村モ後ニ為セリ「アルバチン」ヨリシテ「アムール」河幅漸ク
我ニ三町若クハ七八町トナレリ七八町モアルベキ処ハ島嶼殊ニ多クシテ澪筋
何レニアルヤ弁ジ難キ程ナリ処々ニ「カザック」人ノ見ル就中「トルバチン」ト如
キハ村夫ナル村ニテ屋数ハ二十四五軒モアルベシ「アルバチン」以来両岸地甚ダ高
カラズ往々ニ丈許ノ処ヲ為セリ但シ一方ハ常ニ岩岸ヲ為シテ其岩ハサンド
ストーン」乃至「コングロメラート」ヨリ成レル此ノ風体石中ニハ「ガラニート」「クワルツ」
「セレニート」等ノ混和セシモノヲ多シ朝来天気快晴ニシテ風向モ緩キヲ我邦ノ
春ノ如シ両岸ノ樹木紅葉セシ様ト岸ノ形状等ハ予ヨシテ往年石狩河ヲ遡リ進懐
セシメタリ午前七時「アムール」社ノ汽船「ゼヤ」号ノ者流ニ沂テ来ルニ逢フ船形ハ
我ノ薬組ニ異ナル薬組容モ頗ル美シ但シ黒龍河岸ニ住ノ民ノ一般ヨリ他ノ処

ニ赴ク者多キニ居ルベシ

午后二时頃「ウリヂギー上」ト云フ尖アリ此処ニ上「アムール」社沙金役所アリト矣ヲ庵百二十「ウルスト」奥ニ「ウリヂギー上」ト云フ小洞アリテ沙金ヲ洗ヘリ此ノ「ウリヂギー上」後所ニ「アルバチン」ヲ一百六十「ウルスト」ナリト云フ処ニ矢ヨリ九ノ十四、五「ウルスト」ニシテ又「五ルナヨコト云フ所アリ戸数約五十軒許見ヘタリ即チ戸奥二百十「ウルスト」矣ニ沙金少アルナリ

夜九時半頃白山ノ岸ヲ過グ此岸ニハ石灰ノ層アリテ終歲燃ユ烟出ヅト云フ一日船上ヨリ諦視シタルニ月未ダ充分高カラザルト矛烟ノ深キヨリ以テ弁ズル能ハザリシ、仝月明ニ書夫陰雲ナシ征人ノ声空中ニ響キ秋思殊ニ清シ予乃チ小律一首ヲ得タリ

玉兎漾波金塔横曜星徐動夜三更黒龍江畔仲秋月
蛇影横　　轉高
恩起當年林子平

斯ノ興ニ合ヒテ江面ヲ眺メ望ロニ感慨ノ情ヲ催シ居リシガ頃ニ霧起リテ前途咫尺ヲ弁ズル能ハザルニ至リ甲必丹船ヲ停メ錨ヲ抛ツ一二時眠間霧ハ北風ニ吹掃ハレ前路再ビ明カナリ花是夜錨再ビ独走ス夜十一时半一小村（家数四五軒許）ノ岸ニ泊シ薪ヲ積ミ夜ヲ明ス

十七日

本日程遠カラズ処ハ河幅我カ四丁餘ノ場所多ク西岸甚ダ高カラズシテ徃々平地ノ如キ観ヲ為セル所アリ是ハ西岸ト山相距ル遠クシテ山下ヨリ次第ニ一面ノ平地江ニ連ナリシナリ島嶼亦甚多シ鴨厂ヲ見ルヿ極メテ多シ魯領ノ方ニハ「カサク」ノ「スタンチヤ」折節アリ又様ニ次ヲ燃シテ釈月江ヲ下ル者二ヲ見受ケタリ

終日漕筋ハ十八、九丁ヨリ我ト一里半ニ至ル流木ヲ見ズ

本日左岸処々ニ馬・逓ヲ見タリ又人家アル処ハ畑ヲ見ルヿナシ奥ノ方ニハ「カサク」或ハ「ソバヲ」作ル処モアリト云フ地味素ヨリ極テ膏腴ナリ

朝霧甚タ深キヲ以テ七時ニ始メテ纜ヲ解テ杖走ス東南ノ風暖ニシテ朝七時巳ニ八度タリシガ十時三十分上テ十二度ニ至レリ朝未タ陰ナリシカ須臾ニシテ細雨来ル十時半頃左岸狼ニ山斬立スル所アリ近テ之ヲ観レハ古キ「サンドストン」ノ山骨悟モ峯ヲ以テ切リタル如ク山頂ヨリ水面ニ入ル甚タ壮観タリ其色将濃ノ茶色ニシテ尖ヲ酸化鉄固着シテ黄赤色ヲ装ヘリ其高サ約百三十尺許、斯ル佳景ノ岬ナルヲ以テ「カルサコフ」ハ其筆前ノ東「シベリヤ」ノ総鎮台ヲ勤メタル人ヨリ此ノ「カルサコフ」岩ノ名ヲ負ヘリ「カルサコフ」岸ノ向側ニ一條河流「アムール」ニ入ル此河ヲ「クマラ」河ト云フ支那領ヨリ此河筋魚鉄多キヲ以テ「マヂグル」人集来テ漁スト云フ夫ヨリ四、五「ヴルスト」ヲ経テ左岸ニ一小村アリ「クマラ」村ト云フ家数八軒中ニ電信及郵便局アリ又寺一ツアリ岸ノ高サ一丈五尺ニ過ギズ斯レハ出水ノ時ハ推流荒ベキ筈ナレドモ(水ノ高サ毎年三四「サーセン」ニ至ルト云フ)此ノ辺ニテ「アムール」ノ河幅広キヿ我カ二、三十町ニ至ルヲ以テ水室ヲ持キヤリ斯ノ河幅広シト雖モ嶋嶼散羅スルヲ以テ水陰ノ距離ハ

我カ三四町ヨリ広カラズ

朝ヨリ正午迄間漕筋一条ノ長サ我二里許ノモノ二ケ所モアリ短キ者モ三十町ニ下ラズ真ニ良河ヤリ船艇ヨリ遠山ヲ望メバ樺皮紅葉ニテ詩紅色ノブランケットヲ覆ヘルカ如シ而シテ青松其際ニ立テ斑欽ヲ鋪セリ只樺モ松モ共ニ巨木ナラズ又嶋嶼及洲上ニハ草茅茂生スルヿ羊毛ノ如シ

正午ヨリ雨降候キテ午后六時頃天晴ル南風依然止マサルヲ以テ尚ホ此日迄モ十一度ヲ下ラズ六時半頃ヨリシテ両岸共ニ百尺許、山トナリ河幅約我三町ニシテ一条ノ漫筋ハ我三里餘ニ至ル魯岸ハ支那岸モ共ニ次第ニ低クナリテ遂ニ平原トナレルカ如シ但シ黄昏ニ会シテ弁スベカラズ魯岸此ノ低地ヲ為ス船ノ如キモノヒコリ」ト云ヘル小村アリ家数十軒許ヲ見ル電信局アリ電線モ見ユ支那ノ方ヨリモ断間多ク此端山皆江ニ向テ走リ其キ魯岸ニ至テ再起ス其状恰モ養庫ノ並立スルカ如シ斯ノ如キ南北ニ走レル諸山ノ渓間及山下ヨリ江ニ臨ム迄

ノ一条ノ平地ニ広カラス且茂草多クシテ牛羊ヲ牧スルニ便リ故ニ民ノ尖ニ秣草ヲ刈取リタルモノ積テ堆ヲ為シ魯民ノ渡リ来テ刈取リタル者ヲ「ビコク」村ニ有ハブラゴウスチンスク」府ヲ距ル七十「ウルスト」タルヲ以テ今ノ冒スベシ「デッキパッセンチュル」ハ徐ニ行李ヲ理セリ是レ同府ニ至ル者ヨリ

同ニ云フ「デッキパッセンチュル」ハ多クハ「ロルバチン」ヨリ菜粗タリ男女児童皆アリ予其食事スルヲ見ルニ各自其携ヘ来リシ黒麦ノ「パン」ト塩トヲ除ク外ハ磚茶ノ一片ト少許ノ砂糖ヲ所持セルノミ茶器ヲ装ヒ袋ヨリ出シ甲板上ニアル「サモワル」ニ蒸汽ノ煙出ニ通ズル管ヲ以テ水ヲ烹ルニ供セリ此レ魯人ニハ乏クベカラサル者ニテ予茶モ亦湯ヲ以テ煮テ飲ヲ者ハ稍富メル者トモ云フベキカ然ルニ斯ル「デッキパッセンチュル」モ皆毛衣及枕ヲ用意シ防寒ノ具ニ乏シカラス予又此十数人ノ船客ノ面顔ヲ見ルニ従テ亜細亜種ヲ混シタル者アリ其色ハ我等ト同ジ位ト黄色ニテ只顴骨（ホウ）ハ我等ヨリ低キニ似「デッキパッセンチュル」中ニ二人ノ愛スベキ少年アリ其眼色実ニ本邦人ニ髣髴タリ又略ボ

充一人アリ「アルバチン」ノ者ニ係ル渠云ク我等ハ二十三年ニテ兵役ニ就キ或ハ「サバイカル」ノ各尖ニ一年モ予後シ本土ニ帰リ来テ二、三年モ過ウレバ又ト一年モ他ニ勤番スルニ十五年間ニテ齢三十五ニナレハ全ク本土ニテ農事ニ就キ復タ他出セス本土ハ雑木多キヲ以テ耕作ヲ起スニ甚タ便ナラズ辰牛ヲ所持シテ生活ス稍富メル者ハ鶏豚羊等ヲモ所持セリ活計ハ甚タ易カラズ黒麦ハ一「プード」ニ付一「ルーブル」半白麦ハ弥ト二「ルーブル」ニ至リ牛肉ハ一「プード」ニ付一「ルーブル」タルヲ以テ祭日ニアラレハ常食スルコトナシ鶏（林）ヲ持ル者ハ卵ヲ喰フヲ得レ此左キ者ハ塩若クハ自ラ漫セシ魚ヲ喰フノミト云々

多ハ時半頃全ク暗黒ニシテ只僅ニ支那岸ノ高キニ比シテ前途ヲ髣髴ニ得ベキノミ魯岸ノ方「ホリソン」稍明カニシテ山ヲ見ズ斯ル黒夜ニ航スルヨリハ午間潜（駛）走シタラン方遥ニ慥ニシテ定期、場所ヘモ

遅カラズ着スベキ旨甲必丹ハ午前部屋ニ入テ「カルト」逝ニ日ヲ消シ居リ
夜已ニ暗黒ナルヲ以テ甲必丹ハ船ヲ一岸ノ下ニ泊セシガ十二時頃明月雲間ニ顕レ
前途杳シ待ツベキヲ以テ艪ヲ扳キ櫂ヲ拽キ走シ夜二時ニ「ブラゴウェスチェンスク」府ニ着セリ
本日航過セシ処(午後)モ河悟我二町ヲ四五町ニ至リ一直線ノ渓筋我二里ニ
至ル処アリ十二三丁ヨリ短キ処ハ極メテ少ナシ山ハ断ヘ〳〵ニテ平原ヲ為ス処両岸
共ニ多シ

十八日 快晴暖気小春ノ如シ

「デッキパッセンジェル」ハ拂暁ニ太抵階ブラゴウェスチェンスク」府ニ登陸シ永主等甲板
上ヲ洗フノ音耳ニ喧シクシテ朝立時ニ眠覚メタリ出テ、甲板上ヨリ両岸ヲ見レバ共
ニ平遠ノ郊原ヲ為シ山ハ魯岸ノ方ハ二三「ウォルスト」ニシテ高カラズ支那ノ方ハ猶ト
山ナシ「ブラゴウェスチェンスク」ハ西北ニシテ東南ノ向岸ハ満洲ノ「サハリン」村ヲ見レバ
支那領黒龍江岸始メテノ村ヲ見リ

「ブラゴウェスチェンスク」ハ岸高サ十五尺許ニシテ粧土ノ乾ナル粉ヨリ成レリ支那ノ方モ
亦同地味ニシテ只低キノミ、稠密樹林ハ少ナク婦樹鏗居ス
早朝ヨリ「ホリレーメーストル」電信局頭、鎮台ノ「アヂュダント」等皆正服ニテ舷ニ来リ待
ツテ予カ朝起ヲ待テ居リ乃チ海軍小礼服ヲ着テ之ニ接シ九時ニ鎮台ヲ訪ハ
ンコトヲ約セリ

九時馬車已ニ整ヒルノ報ス於是市川書記官、鎮台ノ「アヂュダント」及甲必丹
等ト共ニ鎮台「オッヲンベルグ」氏ノ邸ヲ訪ヘハ鎮台ハ戸外ニ予ヲ迎ヘ客堂ニ就
テ茶菓ノ出シ最モ慇懃ノ極メタリ同氏ハ日耳曼ニ通スルヲ以テ予カ為メニ大
ニ便アリシ同氏ハ陸軍大佐ニテ鎮台ヲ兼ネタリ同氏ト実時間許談話(後ニ出ス)
ノ後予ハ府内ヲ一見センカ為メ暫時別ヲ告ケシガ同氏ハ許将ノ車ヲ出シ予ト同
車シテ来リ廻ラントテ甚ク敬礼ヲ表スニゾ乃チ同車シテ先ツ「ギムナシエム」ヲ訪ヘハ
七八才ヨリ十五六才迄ノ少年五十人アリテ極少年ノ者ハ魚獣類草木

名ヲ教ユル為メ画ヲ壁ニ掛ケ又地球儀等モ列ナタリ都合三等ニ分チテ都屋ヲ異ニシタリ衣服ハ大抵皆一様ニシテ清潔ナリ氏学校ハ政府ノ入費ニ係ル貴賤人ノ別ヲ立テスシテ皆一様ニ列坐シテ教ヲ受ケリ少年中ニ日本人ニ少シモ遜ハサル眼色恰悧ナル好少年一人アリテ予ハ多分朝鮮人ナラント思察シテ之ヲ問ヘバ果シテ然リ夫ヨリ女学校ヲ問フニ同ジク七、八才ヨリ十四、五迄ノ小女一百四人アリテ教ヲ受ケリ其教ユル方等スベテ前ニ異ナラス只十三四ノ娘ニハ手業即チ縫裁ヲ教ユルノ一課アリ氏学校ハ府民ノ費ニ係ル故ニ前学校ヨリモ大学スル者ノ数倍セリ最早出外ハ見ルヘキ者ナキ由ナルヲ以テ予ハ写真師ノ家ヲ訪ヒ蔵府ノ写真ヲ買ハント欲スル鎮台ハ同行シテ去ラサルヲ以テ予ハ渠ニ辞シ約束ノ如ク一時ニ同氏ノ邸ニテ同食スル迄暫ク帰船スベキ旨ヲ述ヘテ謝ス同氏予ノ意ノ暁リ「アデュタント」ト馬車ヲ予ニ付シ已レハ歩行シテ即チ帰リ但シ「ポリシメーストル」ハ別車ニテ先導セリ写真師ヲ訪フニ南所景ハ一枚モ有セス因テ我ニ写シ「ウラチオストック」ノ日本館近次ノ便ヲ以テ送ラレンコトヲ約セリ即チ一ハ江中ノ汽船ヨリ蔵府ヲ見タル景一枚ハ蔵府内ノ景一枚ハ蔵府ヨリ江ノ隔テ向岸ノ支那「サガリン」村ヲ望ノ景ニ取極メタリ写真師ノ横民ニテ右ノ景二枚ニ対シ弐拾五「ルーブル」ヲ得ント言出セリ格外ノ価ナルヲ以テ予ハ暫ク黙シテ語ラサリシカ「ポリシメーストル」「アデュタント」等側ヨリ渠ニ過貴ヲ諫ムル渠乃チ一枚五「ルーブル」ヅヽニテ写サント言出セリ予茲是前文ノ如ク三枚ヲ誂ヘタリ後ニ考フレハ二枚五「ルーブル」ニテ殷様直段タレハ出辺物価貴キト雖モ写真ノ稀ナルト新タニ探ル手ノ掛ラサルニ写真ヲ買フニ一枚五「ルーブル」ハ少シク気ノ毒ニ思ハルヽ程ノ直段ナリ但シ其大サハ六寸ニ五寸許ノ物ニシテ其体ニ過ルヲ以テ其体ニ過コレ置キヌ

写真師ノ出テヨリ「ポリシメーストル」電信頭、汽船社ヲ巡礼ノ為メ訪ヘリ「ポリシメーストル」ノ家ニテ蔵府ニ生セル水瓜ヲ喰フニ小ナリト雖味甚タ甘クシテ砂糖ヲ要セス氏家ノ小使ハ朝鮮人ニシテ好男子タリ

大ヨリ「アチェダント」市川子ト三人同車ニテ府内ヲ殊ニ駛セ廻リ府ハ江岸ニ沿テ三「クォルスト」ノ間人家アリ奥行モ四町許ノ矢アリ皆丸木作ニテ石屋ハ一軒モナシ人口ハ鎮台ノ言葉ニ拠レハ凡ソ七千人アリト又途中ニテ「アチェダント」ニ問フニ当府ニ正兵一大隊砲兵一「バッテルイ」唔薩克一「ソットニヤ」ノ由同氏ノ言ニ当府ノ一大隊ハ四百五十人ニテ東「シベリヤ」ヨリ六年交代ニ係ル唔薩克ハ一年兵隊ニ就クヿニテ其ヒトヘ兵ヲ要スル時ハ殊ニ多ク役スル撰ナヨリ以テ有事時ハ唔薩克無三千人ヲ集ノ得ベシト

府内江岸ノ歩頭ニ樹木ヲ正シク植並ベタル処ハ八九丁アリ路傍ハ他ノ「シベリヤ」府内又ハ村落ノ如ク我十二三間モアルヲ以テ一見ニテ開化人民ノ住居スルヤウナル感ズ河ニ此樹木ヲ植並ベタル歩頭ノ一方モ構中ニ樹多シ而シテ鎮台ノ邸ハ其中ニアリテ後面ハ歩頭ノ樹ヲ程能ク隔キタルノ以テ鎮台ノ客坐数ノ窓ヨリ家園ヲ距テ黒龍ノ流ヲ眺望シ得ベシ邸ハ建府ノ始メニ立テタル木屋ナルモ始メヨリ能ク注意シテ景色ヲ建築セシ者ヨリ歩歩ノ樹モ其頃他ヨリ移植シテ行儀ヨク植ヘタルモノナリ寺観ハ二個ニテ「ビショップ」一人住居セリ

儲君カ車ノ通ル毎ニ兵卒ハ勿論商人等モ皆ナ「イオレント」及勲章等ヲ胸ニ掛ケ居ルヿヨリ兼テ支度ノ厚キヿ知ルヘシ儲君カ自ラ触ルヽ

南府ハ商家二十軒モアリ就中露国人ノ商店ハ独逸人二軒佛蘭斯小店一、支那ノ商店ハ「シニヤシン」「サイー」ノ二社アリ是ハ魯ノ標記ヲ借リテ商フモノナリ其故ニ支那政府ハ支那商ノ南府ニ来テ住居シテ営業スルヲ禁スルハ此ノ餘ノ商店皆魯人ナリ物價表ハ別帳ニ記ス

十一時ニ暫時帰船シテ甲板丹ト共ニ南府ヲ河上五哩ヲ「ムラビヨフ」ノ処ニ赴キ「ムラビヨフアムルスキ」ト記念石ヲ見ル此処ハ千八百五十二年ニ「ムラビヨフ」氏兵ヲ率キテ黒龍江ヲ下リタル時始メテ登陸シ假ノ兵営ヲ設ケシ処ナリ記念石ハ煉化石ニテ「ピラミダール」ニ作リ高サ十五尺許ナリ五十八年ニ建テタルモノナリ遠ク郊野ニ生セル樹ヲ見ルニ柏木ノ小ナル者甚タ多ク樹木ノ一変セシ證ナリ然レ共白樺ト松樅ハ依然諸処ニ見ユ

十二時四十分帰船スルニ鎮台ノ車ハ船場ニアリテ予ヲ待チ予乃チ市川子ヲ拉シ甲板丹モ内ノ船場ニ赴ケハ府民及支那人満洲人等雑ヲ為シテ予カ登陸ノ前ニ並立ツヿ予カ鎮台ト共ニ上ノ人リシ時楽起リ容間ニ入レハ南府ノ文武官弁セテ二十四五人許一切ニ駢立セリ鎮台ハ一ト予ヲ迎ヘ陸軍楽隊ハ廳語ニ尤モ能ク通セリ又南府ノ「ビシオップ」モ来臨セリ

夫ヨリ盛饌アリテ二回ノ懇親及互ノ「サンテイ」ヲ飲ミ二時半ニ宴ヲ了レリ宴中ハ時々奏楽アリ鎮台「ヨツカンベルグ」氏ハ明年五年ニ満ツルヲ以テ彼得堡府ニ帰ルヿヲ預シメ朱ニ居リ同府ニ於テ予ニ再見センヿヲ両三次モ言出セリ

食机中ニ予カ麥酒ヲ嗜メルヿヲ聞キ鎮台ハ南府ニ於テ製造スル麦酒ヲ出シテ予ニ飲マシメタリ未タ称酒ナラス鎮台並ニ「ストウケル」氏ヨリロヘテ熟スルハ佳味ヲ為スヿヲ請合ヘリ予依テ「ホップ」ハ何ノモノヲ用ユルヤヲ問ヒシニ「バアリヤ」種ヲ最モ善シトセテ南地ニ植付ケタルナリト

若ヘリ茶是「ホップ」ハ種ニテハ能ク生スルヲ主張シ既ニ其園ニ生セシ「ホップ」ト種トヲ予ニ恵セリ予其葉ヲ嚙ミタル葉ヲ嚙ミ苦味甚ダ渋クシテ殆ト無味ナリ然レ共予ハ其「バワリヤ」産ノ品ヲ味ヒシヲナキヲ以テ佳否ノ評ヲ下シ難シ「ストックケル」氏ハ戸ノ種ヲモ予恵セリ又「アムール」産ノ「アセトリーナ」魚ノ子（即チ「イクラ」、佛「カウヒヨル」）ノ塩付ヲモ予ニ贈レリ予之レヲ味フニ精製トハ云ヒ難シ其故ハ塩ニ漬ケテ油気甚タシク黄色ノ油ハ七ニ残リテ痕ヲ止ムルハナリ商人「ペーテルソン」氏ノ話ニ「アムール」ノ下部ニハ「アセトリーナ」強ニ多ク未製ノ品ハ一「プード」ニテ二「ルーブル」ニ過ギズ製品ハ精粗ニヨリテ十二「ルーブル」ヨリ二十「ルーブル」ニ至ルト又「アセトリーナ」ノ気胞ハ魯人其俵乾シテ売買ニ出ス其量頗ル多シレト「カビヤール」ノ製法ハ未製ノ品ヲ味噌濃塩ノモノニ入レ屢次水ヲ以テ能ク洗ヒ味噌濃ノ穴ヨリ降下セシモノヲ集メ麻袋ニ入レ適宜ニ塩ヲ和シテ「プレス」スルナリト此等ノ話ハ粗漏ニテ記スルニ足ラズ

ドモ始ノ且ツ之ヲ記スルハ記セサルニハ劣ルベシト思ヘバナリ

三時頃ニ鎮台ニ到シ帰船ス時ニ「ペーテルソン」氏予ヲ向岸ノ「カザリン」村ニ連行カントテ一小汽船ヲ傭ヒ来リテ船ニアリテ予カ帰ルヲ待テ居リテ予ハ愛琿ニ於ケル船ヲ停メンコトヲ甲必丹ニ頼ミシヲ以テ需ニ応スルニ時ナシト固辞意黙止シ難キト支那ノ村落ヲモ一見シタキトノ二心抑ヘカタクシテ遂ニ甲必丹ニ三十分間ヲ乞ヒテ向岸ニ向フ甲必丹モ鎮台ノ「アヂュダント」モ其他満洲通事モ亦内紹リ「サカリン」村ハ前ニモ記セシ如ク「ブラゴウエスチェンスク」府ノ前面ニアリト雖此処ノ河幅ハ我三町餘ニシテ流ハ頗ル急ナリ斯リテ村ニ至リ支那ノ一商ヲ訪フニ館主ハ留守ニシテ番頭ノミ在リ此ノ番頭ハ「ペーテルソン」氏ノ相識ニテアリカ日本公使タルヲ聞キ大ニモテナサントシタレ共予ハ時ナキヲ以テ直ニ暇ヲ告ケテ帰船セリ此村ハ家数ハ二十軒許ニ過キスト雖支那ノ商人住居シテ「ブラゴウエスチェンスク」府ト商業ヲ営メルヲ以テ其家ハ甚タ華美ナリ村民ハ満洲

人より満人と支那人とは容貌も衣服も同じきを以て雑別し能はず
予が小汽船に乗組みたる時は鎮台は自身に別を告ぐるため本船に来りぬ
時なきを以て船中より立礼にて別れたり
午宴の時鎮台より諸士官を以て云ひ聞かせ愛琿府より訪ひ来るべき由は既に「サカリン」村
より愛琿、支那鎮台へ為知たりと、又鎮台は其「アヂュタント」と満洲語に
少しく通ずる「カザク」の下士官とを予が為めに附添はせたり
予は見る事遠鏡を以て其容貌衣服を見るに支那人とは異なり家屋
自国風に建てたる者なれば外見は却て魯領貧卑の人家よりも佳なるに似
たり渠等皆農事を勤むる由にて咯薩克より逃れ来りし由魯岸の方に住ん
満洲人も亦然りと云ふ「ブラゴウエスチェンスク」より発
入る処の河口は四百「ウルスト」も下流にて大河流
れ来る砂金を多く拾ふ「ゼヤ」の河口に満洲人の村落あり愛琿城の前より「アム
ール」左岸に住居する者にて今尚依然魯地にて支那の戸籍に属
する者なり此種の民現に魯領内に在る者殆んど七、八千人もありと云ふ而して其の
村落及附属地は其民の所有物なるを以て魯政府にても之を
奪ふ事能はず魯商等此地に館舎を建てんと欲する時は愛琿の鎮台に許可を受ケタ
ル後にあらざれば能はずと云ふ
午後五時頃我船已に愛琿城の岸に達して
陸より見物せんとて待構へ雑沓甚だしくがやく話す声本人の語音に髣髴
たり南下して満洲騎兵の士官二人白服にて来り出て来り船場にて馬より下り予
を迎ふ士官の服は通常の支那人の服に異なる処なく白衣たり寒中オムベケール

テ、チーヘル」状ニテ赤キ毛ヲマバラニ覆ヒタリ但シ世寒ノ頃ニ何ヲノ玉ヲ付ケタルヤ否ハ莫斯科ニテ聊知スルニ暇ナカリシ彙リ来リシ馬具ハ西洋風ニ大同小異ニシテ吾邦ノ馬具ヨリハ間便ナリ、タヅナモ皮ニシテ洋風ニ異ナラズ察スルニ西洋ヲ摸シタルナラン馬ノ咽ノ下トコムナガヒ」ニ赤毛ノ房ヲ二ツ付ケタリ是ハ「ゲラー」山ニアラザレバ用ユル能ハザル由我等既ニ上陸シタレハ彼ノ二士官ハ馬ヲ予ニ勤メリ乍是予ト「アデュダント」ハ其辰ニ乗リ満洲士官ハ予カ馬前ニ両人並ビテ前導スレテ徒歩ス恰モ吾邦往日ノ徒士ニ似タリ群童輩予カ馬側ニ添ヒ来リ頻リニ「アムバン」ト々々呼べり「アムバン」トハ満語ニテ将軍ノ謂ナル由支那邊塞ヲ守ルノ鎮台ハ皆「アムバン」ヲ以テ「アムバン」ノ義ニモ取リ拠モル鎮台ハ此ノ「ミリタイレグープルニウル」ナルヲ以テ「アムバン」ヲ鎮台ノ義ニモ取リ拠モ愛琿城ハ「アムール」ノ右岸高サ約二十尺ノ平地ニアリテ黒龍江ノ総鎮台ナリ奉行ハ満人ヲ用ヒ附属役人モ満人多シ船場ヲ市街ニ出ヅルニ路幅狭キヿ我邦大阪ノ街ノ如クニシテ処々ニ泥濘深ク又車轍ノ痕地中ニ深ク入リテ数条ノ細溝ヲ為セリ蓋シ雨水タマリテ路傍ニ穴アリ其深サ馬脛ヲ没スルヿヤヤカラス一言シテ之ヲ言ヘハ極メテ悪シキ道路ナリ人家ハ皆木製ニシテ樓ナク屋根ハ我邦ノ人家ト同形ナリ又土塀ヲ以テ篭ニ為シタルモノ多シ何レモ赤色ヲ呈シ易カラサル市人ハ皆庁ヲ出テ我等ノ過クルヲ立見セリ店ハ皆已ニ鎮ノ燈火サヘモ外ニ漏レズ行クヿ三四丁許ニシテ郭内ニ入ル郭ハ丸木ヲ立テ囲ミ鉄尖ノ蒙古又ハ韃靼風ノ塵ノ如ク四ツ角ヲ上部ニ付ケタリ暗香ニテ郭周囲ヲ概測スレハ我四町四方モアルベシ思ヒタリ而シテ其高サハ打勝間ニ三間許ヲ九本ノ丈ハ往我六七寸ニ過ギズ二三ケ所ニ逢ヘハ破砕スヘシ但シ矢ヲ防クニハ充分タルヿ疑ナシ予已ニ郭内ニ入ル郭門ハ櫓門ニテ我邦ノ見付ニ似タリ郭門ニ入ルヤ否ヤ突然大砲三発ヲ放テリ是シ予カ来臨ヲ祝スルノ意ナルヘシ砲ハ何処ニ備ヘアルヤ弁セスト雖モ大木ノ構内ニ備ヘタルモノナルベキハ其音耳ノ辺ヲ距ル遠カラサル処ヨリ発シタレハナリ砲ノ所在ノミナラス其大小ヲ

モ知レベカラスト蛍内某ハ懸カニ窪畠タルベキ音ニテ懸カメ得ベシ蓋シ六ケ許ノ砲声ニ覚ヘタリ是クシテ鎮台ノ衛門ニ至ルニ一個ノ前門アリ「アゲダント」ハ此ヲ下馬スヲ予ハ前門ヲ乗リ入リテ更ニ一個ノ門ニ至リシニ此ニ役人等迎ヘニ皆タルニヨリ下馬(レテ)其門ニ入レハ鎮台モ出迎ヘ予ヲ手ヲ携テ庁内ニ入リ是即チ正廳ナリ二間アリテ一ハ数ケノ磚ヲ以テシ一ハ木板ヲ敷キタリ是シ鎮台ノ上司ト称スベシ一方ニ設ケテ机ハ其中央ノ端ニ置ケリ此設ハ西洋ノ紋形ノ毛氈ヲ敷ケリ鎮台ハ予ヲ上座ニ迎ヘテ自ラ次座ニ就キタリ但シ設上腰ヲ掛ケルナシ(レトモ)得四個ヲ設ケタリ此ハ上ニ腰ヲ掛ケ板間ニ「クタール」四個ヲ並ベタリ而シテ洋製ノ腰掛数個アリ窓ハ油紙ヲ張リ天井ハ白木ノ板ニシテ卍字ノ「ウェンチレーション」ニ供スル五六寸ノ穴二個アリ柱ニハ紅紙ニテ聯句ヲ書キ張付ケタルヲ支那ノ通風ヨリ外洋製ノ下品ナ姿見一個ト書物棚一ツアリタリ此外ハ飾物一切ナキ故ニ客間ノ索然タルヲ我邦風ニ全ク同シ広サハ凡ソ十五畳許モアルヘシ予ニ随行シテ

雑然出入リタル者ハ市川、大岡、寺見、甲斐丹、満語通事、「アゲダント」等外ニ船中ノ客七八人ニシテ甚シキハ二等船客ナル鲁婦モ内行シタルガ狼吏ニシテ帰船シタリ支那ノ方モ役人小使等給繰入乱レテ客間ハ一圓人ニテ満タリ

鎮台ハ吉林ノ人ニシテ本名ヲ依克唐阿(イクタンガ)ト唱ヘ年四十九才ニシテ痩セテ大丈夫ヨリモ高ク柔和ナル顔ニテ友愛ノ眼色アリ蓋シ資性好良ナル人物ト見受ケラレタリ渠ハ予カ手ヲ握リ或ハ脊ヲ撫シナゾシテ歓待ノ礼ヲ尽シ予カ帯ヒタル剣ヲモ脱セヨト手似(マネ)ニテ示シタリ通辞ハ市川子鲁語ニテ支那商(即チサハリニ村ニ住メル巨商ニシテ官位ヲ貰ヒ居ル者)ニ言伝ヘ渠ハ僅ニ覚得タル鲁語ヲ満洲語ニ譯シテ鎮台ニ説クヲ次ヲ一語ニ三階脱ヲ貰シ而シテ真ニ能ク通シタルヤ否ハ大ニ疑ハシキ所ナリ此間鎮台ハ頻リニ予カ手脊ヲ撫シテ笑ヒ(是ハ礼儀タルニ相違ナシ)ナガラ「アウ、パカ、ホウ」ナゾト鼻ニカヽリテ解スベカラサル語ヲ以テアシラヒ居タリ於是予ハ筆墨ヲ索シ筆談ヲ始メタルニ支那商並ニ満洲役人等一層「インテレスト」シタル

樣ヲ顯ハセリヲ予カ一字ヲ書ス毎ニ彼等皆予カ傍ニ集リテ文章及字体ヲ注視シタリ其時予ハ幼時「セキガキ」ノ件ノヲ思ヒ出シテ自ラオカシク覺ヘタルカ無遠慮ニ辭辞遠而止ト心組ヲ走筆ニ諸事ヲ書下シタリ鎮台ハ筆ヲ採テ答ヲ爲スニ予ヲモ暮ヲ遲ク具譯文深ク遲セカルト見ヘ前文ヲ支那南北通事支那語ヲ助言スルヲ予カ鎮台ニ通事ヲ以テ予カ官位及姓名ヲ問ヒ(訊)ミ他ニ百般ノ雜話モアリタレ共重ニ予ヨリ發言セシコトヲ多キニ居ル而シテ予ノ書キシ文ハ鎮台之ヲ收メテ後ニ予カ方ニ殘リシ筆談ノ一二ヲ筆クレバ渠カ手ノ官職等ヲ問ヒシ件

予係日本國水師將軍兼欽差全權大臣ト書キシハ渠ノ筆ヲ採テ左ノ如ク書キタリ

予係拙守荒僻小地幸遇貴大臣賞光今待晤尊顏拜謝ニ

予亦書ヲ云ク

予駐扎俄國京城四年于此矣今秋待罪歸于本國途次過此地故欲一訪以賁爰隣交誼并以一見 貴城內也

渠書ヲ云ク

祈

貴驂留名祝此敝城幸遇 大駕光臨實甚感激盛情勿

光多ニ矣

ト認メタリ予亦書ヲ云ク

貴國与我國交誼猶你汝容貌亦甚相似今待面語尊台實

是本懷

ト記シタレバ鎮台之ヲ諦視シテ而手ヲ次テ予カ手ヲ握リ例ノアウバウポウ」

トモ云フヘキ口振ニテ滿面ニ喜色ヲ顯ハシタリ○渠亦筆ヲ採テ曰ク

予係吉林人氏祠愛輝副都統今三年名依克唐阿小号

予亦之ニ答フルニ予姓榎本名武揚号梁川ノ十字ヲ以テセリ予亦次テ書シテ云ク

初予思欲越俄国境界入貴国経寧古塔吉林等城達北京今時季已晩故直越海帰日本也

ト書キタレハ渠日本国ハ台湾ヲ距ルヿ近キ由ヒ地ヲ何日許ニシテ達スルヤト問ヘリ即チ浦潮港ヨリ火船ニ三日ニシテ日本ニ達スル事ト我邦南ハ台湾ニ隣シ北ハ盛扎加ニ接スル旨ヲ知ラシメリ此ヒ厳内ニハ地図トテハ一枚モナシ渠亦窃歳魯土ノ戦如何ヲ予ニ問ヘリ予即チ本年新暦正月三十日我了リ魯ノ勝タルヿヲ知ラセ且ツ我国ノ武弁魯軍ニ在テ一年間我地ヲ研究セシヿヲ語リ聞カセタリ此時鎮台ハ感心ヒタル色ヲ見ハセリ予鎮台ニ問フニ愛琿城人民何程ナリヤヲ以テセシニ諸有司等相議シヤガテ支那人等ヲ採テ答ヘテ云ク玻琿ハ万人ヲ下ラス支那人ハ猶万人ノ上ニ在リ特ニ「アチダント」及魯人其数ヲ予ニ問フヿヨリ支那人ノ答ノ如ク七万人ヲ以テセシニ渠等大笑ヲ抑ヘテ云ク支那人ハ猶疑ノ念深ク斯ノ虚言ヲ吐テ人ヲ笑ヲ取ルヲ知ラス渠等ハ閣下ニ問ヲ以テ別ニ趣意アルヿト考ヘタルナルヘキニナラン欤本日ノ暑剋モ亦暑上ニ関係アルヿト認タルナラントヽ或ハ然ラン且ツ支那ノ風習ニハ真数ヲ問フヲ極メテ忌ム由ナルヲ以テ予ハ此種ノ問ヲ廃シテ苟クモ制衣造所アリヤト問ヒタルニ何ニモナシト答ヘタリ予又北京ヨリ当府迄郵便ハ幾日ヲ要スルヤト問ヒシニ有司亦相視テ答ヘテ曰ク郵便ハ七日ヲ以テ達シ荷物ハ一ヶ月ヲ要スト、魯ニ遥ヲ側ヲ問テ云ク汝学愛琿ヨリ北京迄幾里程アルト思フヤト其言ノ誤レルヲ譏ル支那人答ヘテ通事云ク渠等ハ答ヘ虚誕ナリ郵便ハ十五日ヲ要スベシトテ予ニ謹答セリ此ノ説ノ方恐クハ確ナルヘシ

因云ノ後ニ一等ノ船客李曾テ愛琿ニ在テ練兵ヲ見シニ或ハ予ヲ客

キ或ハ「マッチコック」銃ノ携ヘ不規則ニサワキタル後各自相笑ヲ出シテ隨意ニ蝦蟇ヲ喫シテ地ニ墜ル様実ニ馬鹿ニ来テ名状シ難シト又云ケ満兵ハ肋骨モ強キ者多キ故モシ之ニ十分ノ食ヲ与ハ利器ヲ操ルヲ教ヘシスプリナ」ニ慣ゾシハ用立ノ兵ヲ得ル能ハサルニアラズト

鎮台書記ニ命ジ支那文ヲ以テ予ノ来訪ヲ悦ビ此地ニ暫ク停ラシテヲ勤メタリ其文甚遠遜ニテ礼アリ予ハ本日ナキヲ以テ本宅再ビ発船ノ由ヲ告ケタリ鎮台予ガ来訪ヲ北京ニ奏スベシト云ヒ予ヲ鎮台ガ隣交ヲ重ジテヲ篤待セシ礼ヲ我政府北京公使ヲ以テ謝スベシト答ハ置ケリ既ニテ茶菓及「シガレット」ヲ出シ且云ク薄来ノ今少ク先キニ知レタルヲ以テ盛饌ヲ勤メカタシト雖ク八鄙饌ヲ以テ一盃ヲ共ニセラルレハ幸甚ト予乃チ其意ヲ謝スヲ時机上ニ食器(即チ象牙ノ「ハシ」)ヲ先キニ三寸許リ銀ヲ付ケタルモノ及銀ノ小匕ト小皿等ヲ(ヲ)並ベ洋製ノ硝子盃「ポルトル」酒ヲ酌ミ鎮台先ツ予ニ向テ両国ノ交誼厚キヲ祝シテ飲ム予亦謝シ之ニ答酬ス鎮台ハ終始予ガ下席ニ坐シテ酒食ヲ勧ムルヲ以テ其ノ勤労ヲ慰セント欲シ武官ニシテ黄銅ノ玉ノ文官ナル由)等予ガ次ノ机ニ列食ス本邦人並ニ魯人ノ後ヨリ立チ覗ヲ姿ハ甚タ礼ニ背ケリト人々感心タルベシ鎮台ハ自ラ食ハズシテ傍ニ人ヲ飲酒ヲ勧ムル様甚ダ奇ナリト雖甚ク客ヲ待ツノ殷勤ナル実ニ勧メタリト謂フベシ先是「プラゴウエチスク」ノ鎮台ノ語ルニ露帝ノ愛輝鎮台ノ妻ヲ見タリト云ヲ以テ予ハ依氏(即チ鎮台)ニ妻子同住スルヤ否ヲ問タルハ渠云ク愚妻モヤガテ詣スベシト予悦テ云ク予国ノ礼ニ於テモ賓客ヲ待ツヤ其妻出テ坐ニ興ガルナリ云々一従側ヨリ予ニ言テ曰ク我国ノ凡人ノ妻ヲ見ル時手ヲ握ル礼ナシ願クハ強ヒメ之ヲ談セラレヨト予云ク之ヲ諒セリ依此礼法ハ曾テ孟子ニテモ読ミタリト云ヘハ微笑シテ之ヲ諒セリ備食物ノ数ハ共計二十五品ヲ換ケタレ共大抵脂気多クシテ更ニ口ニ適セス海参鳧魚蛮葛仙来等ハ通事支那人側ヨリ書シテ予ニ示スニヨリ之ヲ

知リタレ其餘名モ知ルヘカラス曽テ香港ノ杏花樓ト云フ料理屋ニテ食セシ時ニ基タ似タリ只茄子ノ油烹ハ予カ口ニ適セシヲ以テニ三七之ヲ喰ヒタレハ好鎮台大ニ悦ヒ頻リニ取テ予カ皿ニ入レタリ「シャンパン」モ出シタレ共氣ノ毒日許前ニ散シ去リタルモノナリ食了テ事未タ出テス予特ニ立テ別ヲ告ケレトス鎮台乃チ予カ手ヲ執テ署ヲ出ツヨリ別ヲ小九門ニ入レハ大石様ノ処ニ更ニ一戸アリ此門ハ即チ一所構閨門ナルヘシ戸内又ハ広キ堂數アリ鎮台予ヲ上坐ニ置キ自ラ次坐ニ就ケリ前ノ如ク既ニテ其妻猶歩シテ(支那婦ノ如ク足ヲサルハ稀歩人ニ寄ラルヲ以テ知ルヘシ)筒袖緋衣ヲ着頭髪ハ我邦既往ノ御殿女中ニ髣髴タリ中勢(セイ)カニテ少ク痩セ品ノ良キ婦人ナリ齢ハ二十六七ニ見タリ坐數ノ戸内ニ入ルヿ數歩予乃チ迎ヘテ之ヲ揖ス渠亦手ヲ拱シテ予ヲ揖ス予通事ヲ以テ相逢フノ悦ト一回宴ニ預リシ礼ヲ述ヘ渠少シク恥ヲ帯ヒテ曰ク礼ヲ述ル時ハ十月皆此婦ニ泊キ居タリ婦ハ甚タ「マノワルキ」体ニテヤガテ默禮シテ退ケ房内ニ入リ其有様ハ本意ナキ事ヲ予ニ喚ト出サヌル者ノ如シ是ヨリ鎮台ニ復タ禮ヲ述ヘテ別ル

日鎮台遣テ前文ノ中門外迄来ル予乃チ此処ヨリ再ヒ馬ニ乗リ郭門ヲ出テトスル時又々祝砲三発ヲ放テリ但シ有司二人大ナル提灯ヲ持シ予カ馬前ヲ護シテ前行ス午時ヲ未タ市衙尚暗カリシカ市人ハ戸ヲ出テ予カ帰ルヲ目セリ此時已ニ日ハ予カ船ニ来ル有司随之鎮台ハ白過キヨリ帰船後無遠シテ鎮台ハ答礼トシテ予カ船ニ来ル有司随之鎮台ハ白鉋子ノ上衣ヲ披キ冠ハ前ノ如ク磨錆ヲ以テ飾リ倒ニシタル如キモノヘ桃色珊瑚ノ八九分許玉ヲ付ケ是ヲ上官ノ印(シルシ)ト為ス又赤色ニ染メタル獣ノ羽ヲ挟メリ是ハ従軍セシ祝標ト為ス鬼鬘人語ヲ予カ乃チ鎮台船ノ附属官并ニ「シャンパン」ヲ出シテ饗セシニ皆盃ヲ手ニセシ迄ヲ飲ス予鎮台ニ何故飲マサルヤヲ問ヒシニ茶ヲ好メトモ酒ニ堪ヘス若ヘリ予ニ於是他官并ニ侑メタレ共鎮台ノ顔ヲ覗ヲ遂ニ飲マザリシ何故ナルヲ知ル能ハス日本茶ヲ飲マシメシニ之ヲ賞セリ其茶ノ煎方甚ヲ宜シカ

ここで香気高きシの次ヲ自考スレハ當ニ御走事タリシナルヘシ、鎮台ハ四角ナル
箱物ニ筆ヲ入リ、濱城ヲ出ル時ト入ル時ニ祝砲二発ツヽヲ放タリ、予ヲ見ル発其数少キ
ハ位階ニヨルナルヘシ（ここまで九月十九日ニ續ク）

是ヨリ鎮台ヲ離レ本ヨリ有様作法本意ニ非ス事繁キヲ以テ略ス

九月十九日

朝起ルニハ船既ニ駛走セリ天気晴明ニシテ風ハ東南ニ付キ大ニ暖ナリ昨日ノ如シ寒暖計
ハ朝九時ニ十度ニ下リ午前十時ニ「ホヤコウ」ト云フ「カザリ」ノ一小村ニ船ヲ着ケ薪
ヲ積ニ入ル予其薪ヲ見ルニ皆屈曲セル柏ヲ以テセリ此辺樹木ノ一変セリト見ルニ足リ
此辺樹木多クハ小ク其幹ハ向岸ナル支那領ノ地ニ多ク出ルヘシ其幹ハ矮小ニシテ繁茂スレハナリ薪ノ價ヲ問フニ「サーゼン」
味モ亦陵ヲ争ヒ同ビキニ矮樹羊毛ノ如ク繁茂スレハナリ薪ノ價ヲ問フニ「サーゼン」
付キ三「ルーブル」三十「コペーキ」ノ由但シ黒龍汽船社ハ魯商「バーベレツオフ」氏ナル者ト約
束シ「ストレチェンスク」ヨリ「ニコライエフスク」迄ノ間ニ何ノ「スタチョン」ナリトモ薪一「サーゼン」ニ付
一「ルーブル」八十「コペーキ」船運運賃トシテ五十「コペーキ」ヲ拂フニ定リ居ル由但シ伐木ヲ「カザク」等ハ「バーベレツオフ」社ノ手ヨリ伐木價ヲ受ケ

なり若しコンタンノ上ナキ船ニテ菊如ノ如キ樹木ヲカラサル駅ニテ薪ヲ買フ時ハ四、五
「ルーブル」ノ價ニ及ブ云フ
天氣朗明ニテ岸上ノ景快ヨキヲ以テ予独リ上陸スルニ「カザク」ノ下等士官李直チニ予
ヲ護シ内行ス村家僅ニ十七八軒ニシテ人口ハ八十人許ト聞ク漸ク村ニ近ク麥畑数一切ナキヲ以テ「カザク」ニ問フニ五「ウルスト」モ隔テタル岑ニ畑アリ
ヘリ村ノ辺ニ麥畑数一切ナキヲ以テ「カザク」ニ問フニ五「ウルスト」モ隔テタル岑ニ畑アリ
ト者ヘタリ野菜及蕃薯蕃薯ハ家毎ニ少シツヽ作リ居リ
此処李見ル大国ニ生ズル「ポーランド」人ト共ニ「カザク」ノ富家ヲ訪ヒタル話ノ記載スベシ大国生ズル葡萄ヲ「カザク」ノ家ヲ持チ来レリ
村民ハ皆「カザク」ニテ我等ノ船ノ着スルヤ李皆野菜、雞、雞卵、牛乳及蕃薯蕃
等ヲ少シツヽ持テ買手ヲ待テ居リ甚タ其儘ヲ見ルニ衣服ノ貧ニキハ別ニ「シベリヤ」ノ
村民ヲ甚タシトハ称シガタシ而ニテ国力女共ニ皆跣足(ハダシ)ナルヲモ「シベリヤ」村民
ニ異ルコトナシ男人ヨリテ物價ヲ問フニ蕃薯蕃ニ「カーペー」ニ付四十「コペーキ」麦ハ二「ルーブル」
ナリト「ペーテルソン」及其他人皆曰ク「カザク」ハ兵ヲ好シト雖農事ヲ勧メ故ニ膏腴地
アレド妻及其他ノ穀物ヲ作ルヲ力メス此事ハ魯国ノ記者モ略ボ同一ニシテ
旅行セシ「ヘイデマン」氏モ予ニ證スル所甚タ多シト
満洲民ハ能ク農事ヲ力メ獲ル所ノ者ヲ引キ来リ
午後「アムール」汽船社ノ一汽船ノ三艘「バルク」二艘ヲ曳キ来リ
ニ連ヘリ其故ヲ問フニ是ハ本年英ト挙ヲ開クニモシカシカ為メ「アムール」諸地方ヨリ
正兵及哈薩克并ニ一千人ヲ募リ「ウラヂオストク」及ヒ他ノ渋海道(谷)ヘ送リシカ無事
ニ治リタルニ付キ今帰ル者ナリト夕朝モ斯ル船一夏来ル迎送シ由甲安丹子ニ
語レリ
午飯ノ時ノ話ニ「アムール」ハ河岸ナリトモ一「デシヤチン」ノ地ヲ二十五「コペーキ」ノ
割ニテ九十九ヶ年間政府ヨリ借リ得ヘシト但シ二十五「コペーキ」ハ一度拂ヘハ九十九
年間ハ何モ鋤ルノ要セサルナリ此地ノ買テ住ル者ハ人頭税モ納ムルヲ要セス只

（名地）「プーネエチレトス」ノ河「カルシ」

「アムール」「シルカ」兩河合流點

無役ハ常例ノ如ク勧メガルベカラズト云事ハ最モ要件ナレ共人々ノ視小異同アルト我
為メニ通訳ノ労ヲ解セサルニアリ無教育カ小解ノ日語
ヨリ「ペーテルソン」氏ノ助ケニヨリ倫談時ヲ移セシ後遂ニ枝論百出セシヲ以テ只此
一事丈ケヲ記スルノミ後日鎮台若シクハ「プレヤ」河ノ「アムール」ニ注ク尖ノ邊ル一大河ヲ出河奥ハ窮髪荒
午后四時頃「プレヤ」河ノ「アムール」ニ注ク尖ノ邊ル一大河ヲ出河奥ハ窮髪荒
ニ倒カサル由ニテ甲必丹モ兼組ノ客モ若クハ「プラゴウエシチンスク」ノ鎮台サヘモ汽
船ニテ何里程稟入得ヘキ歟ヲ知ル者ナシ但シ「プラゴウエシチンスク」府ヨリ此
河口迄ハ約二百四十六「ウョルスト」許リ
河ヲ「プラゴウエシチンスク」府ヨリ「アムール」ト云ヒ河幅甚タ広ク本日モ朝ヨリ曇天遂ニ雨降注セシ
潦ノ為メニ我三里ニ至ル処甚タ多シ河幅ハ我四五丁ヨリ遂ニ二十丁許ニ至リ
陸ニ午后四時頃ヨリ東南風稍烈シク波立テ船ヲ為メニ少シク「スリンケル」ヲ船メ
細字ヲ記ス能ハサルニ至リ両岸双方共ニ低ク遠山ノ遠ク聳エルモノヲ見ズ

「ムール」ニ於ケル温泉

「ムール」ニ於ケル驛

北岸高サ十尺ヲ二十尺許ニ過ス間或ハ双方ノ岸ニ百尺ニ満タサル「サンドストーン」ノ孤山立ツヲ見タリ又支那ノ岸ニ馬ノ群ヲ為セルヲ見ル是ハ勿論満洲人ノ所有ニ係ル

夕七時半頃「ミハイロフスコエ」ニ於ケル鋪ヲ発ス

月光ニ乗ジテ再ビ鋪ヲ換キ駛走ス

二十日

今朝ハ「アムール」ノ澄筋中有名ナル「ヒンガン」山脈ノ間ヲ通過スル由ナルヲ以テ朝五時ヲ起シ船ニ臨ミ「ヒンガン」ノ入口トモ称スヘキ「パシカワ」駅ノ在ルヲ見ル其次「ストロチュワヤ」駅ヲ過ギテ甲少弁云フ「パシカワ」駅ノ矣ヨリ両岸山トナリ屢別ニ称スヘキ程ノ高岸ニアラスト雖朝五時四十五分ニ「ラッデ」ト称スル一駅ヲ過ルノ家数頗ル多シ

十時四十五分ニ「ヒンガン」峡ヲ通過シ正午「ユカテリノ、ニコリスカヤ」駅ニ泊舟シ薪ヲ積ム此駅ニアリテ家数モ三十軒許モアルヘシ李一ツアリ其園ニハ此辺ノ草木ヲ一覧スヘキ別ニ見ルニ足ルヘキ程ノ者ナシ矣ヨリ甲少弁ト

其二一農家ノ構内ニ入ルニ「ヒンガン」山ニ生ズル「キルク」柏ノ大サ八寸許ノモノアルヲ見ル「ハーナル」ヲ下ヘテ一尺許切ラレメ船ニ持チ来ラレメリ此樹ハ「ヒンガン」ニハ多ク生ズル由其若芽ハ我船ノ碇泊所ニ近キ嶋中ニ於テ摩擦ヘキ由ナレド泊舟僅カニ三十分間ニ過ギザレバ「ペーテルソン」氏ハ折ユルヲ恵セリ

○「ヒンガン」峡ハ甲次丹ノ所持セル蕃ニ拠ルニ(二)「ベルスト」ヲ英一「インチ」ニ縮セル銅密蕃「ペンカロ」駅(即チ峡口)ヨリ「ユカテノ」ニコルスキ」駅迄(即チ峡終)約壱百五十「ベルスト」ニシテ薪ノ積ノ如キ所ヲ即チ右ヨリ云ヘハ第一ノハレコワ第二「ストロチュワヤ」第三「ラウデ」第四「リチュン」第五「ホンペユカ」第六「ヒンガン」第七「ポリカルポフカ」第八サユウナヤ」第九「ユカテリノ」ニコルスカヤ」是リ遡航ノ深サ(甲次丹ノ蕃ニ拠ル)二十五尺ヨリ四十八尺ニ至リ嶋ト両山ノ間ナルヲ以テ僅ニ三四ニ過ギ河幅ハ我カ目撃セル所ヨリスレバニ二丁ヨリ七八丁ニ至ル流ハ格別他所ヨリ急ナルヲ覚ヘス其深ハ我等ノ航行是迄順流一時間二十「ウルスト」ニシテ「ラウデ」ヲ過ギシ前モ記セル如ク朝五時半五分ニシテ峡ヲ去リ尾ハ朝七時四十分ニシテ「ラウデ」ヲ過ギタレバ此間壱百二十「ウルスト」ナレハナリ(六時ニ二十「ウルスト」ヲ進ム)

因ニ云フ「ヒンガン」峡ハ黒龍江ノ下部ヨリ曽テ海軍ノ「コムマンドル」タル壮「ポデノ」名ノ「ポラペイ」ナル人測量シテ前文ノ如キ数名ノ駅有ニ撰ヒタル処ニ命セラレシナリ即チ「ユカテリノ」ニコルスカヤ」駅ハ向氏ノ恋着セシ婦人ノ名ヲ取リ「サユウナヤ」駅ハ彼婦ト夫婦約束ノ際ハンコヲ望ミテ斯ク名付シ由又「ポリカルポフカ」駅ハ向氏父ノ墓キ「ホムペユカ」駅ハ自己ノ名ヲ被ラレタルナリ其他モ皆相知人ノ名等ナル由ノ「ペーテルソン」氏ヨリ聞ケリ「ヒンガン」ニ家屋ニ於テ曽テ家宇ト語リタル二人居リ左ニ家屋ニ於テ曽テ虎ノ猟ノ時誤テ中ラシテ虎ニ喰ヒ殺サレシ同人ノ連其虎ヲ銃撃セシ者ニテ兎カクナル由ヲ語リトニカク此処ハ満岸ノ山モ小ク海ヲ隔テ魯岸ノ海ト斜ニ相向フ熊虎狼等ノ猛獣ノ河越スル所ノ河巾モ両岸共ニ一マリトモノコヒルガン」山脈モ両岸共ニ

虎アリト云フ熊、麻相住ミ樫（樟）ニ葡萄ノ纏フ如キ（ママ）奔車（アムール）河ノ
烏嘴里（地名）ノ外ニハ無キ由實ニ然ルベシ現下（ハバロフカ）ニ住ム一商（フリスニン）
氏ノ曾テ「ウスリ」河眞逕（逕）ヲ騎馬ヲ以テ旅セシニ偖（扨）ハ眞ノ偖ヲ銃撃シタリト
又三四年前「ウスリ」府衙ヘ白晝虎出デタル由是ハ市偖ノ空言ナラデ
實說ナルヘキ疑ナシ曾テ廣東新話ノ續ニシテ或ル鎭台ノ句ニ市無
盜賊偖通衢ノ句アリ市偖ノ說一概ニ空言視スヘカラス何々
「ヒンガン」峽ノ瀑布ノ兩岸モ我カ百間ニ
下ラス廣キ所ハ九丁モアリテ屈曲ハ東南ニ轉ジ或ハ西南ニ向フ知モアラヌ溪筋
一直線ノ長サ我ノ七十三里ニ當ル者二ケ所モアリ短キモノニテモ五六丁ニ下ラス而シテ
深キヨリ江ヲ航通スルニハ他所ヨリモ甚タ易シトス
「ヒンガン」ハ支那ノ「ゴビ」沙漠ノ妻ヨリ起リ瑞滂（ママ）ト蒙古ノ分界ヲ山ヲ由ツル

チエドルエキー氏ノ蒙古記行ニ見ヘタリ此山脈滿洲ヲ貫キ黑龍江ノ左岸ヲ趁ヘテ
「アルゼロワルスキ」氏ノ說ニ據レハ「ウルガ」ヨリ東百三十里ニシテ船ヲ支那ノ大沙漠（ゴビ）トナル而ヲ以前
此沙漠ハ海ヨリ八千尺高カリシト唱ヘ來リシモ甚實ニ四千尺ニ過キス處ヨリ二千尺ニ過キサル四
地アリト
シ但シ「ブリエトニック」又ハ「オルガニック」ノ地質ニハアラサルヿ明カナリ
爭不斷兩岸ノ樹ヲ見ルニ大抵柏木ノ類ニシテ「アムール」杜ノ有リ甲冑脚（ママ）ノ
ヿ往々尺餘ノ者稀ナリ之ヲ訊スレハ船ニ積ムヘキ薪ノ汉ヲ伐リ發ヘシ家屋及船
材等ニ適スヘキ者極稀ナルヘシ蒸山更ニハ種ナリ
今朝我船「ヒンガン」峽中ヲ過キシ時魯岸ニ汽船ノ山岸ニ掛ケテ動カサル者一
隻ニ遇ヘリ「ウオルク」狼ト號スル汽船ニシテ「アムール」杜ノ有リ甲冑脚（ママ）船ヲ
卸シテ彼ノ船ニ赴キシカ暫クシテ歸船シ再ヒ棹艣（艣）駛走セリ彼船ハ水壩（ママ）ヲ
出テサルヘシ船客ハ「アルゲン」ト云フ他ノ汽船ニ遇テ車ヲ移リタリト云フ

虎アリト云ノ熊、麻相住ミ（樺太）槻ニ葡萄ノ種ノ如キ実ノ中「アムール」川ノ
烏嘴里（地名）ヨリ外ニハ無キ由実ニ然ルベシ現下「ハバロフカ」ニ住ム一商「フリスニン」
氏ハ曾テ「ウスリ」河邊ノ騎馬ニテ熊ノ為ニ襲ハレ辛シテ逃レ来リ其友人
ハ其ノ為ノ銃撃ニタオレト
又三四年前「ウスリ」府衙ヘ白晝虎出テタル由是ハ市街ノ空言ナラテ
真実ナレヘキ疑ナシ曾テ廣東新話ノ撰ニモ或ル鎮台ノ句ニ市無
盗賊唯廻衙ノ句アリ市街ノ説一概ニ空言視スヘカラス何々
「ヒンガニ」峡ノ澪筋ハ河幅甚ダ狭ク終日繋ル所ニ拠ルニ狭キ割ニモ我カ百間ニ
下ラス広キ所ハ八九丁モアリテ屈曲ハ東南ニ転ジ或ハ西南ニ向フ知モ定メ難筋
一直線ノ長サ我ノ七十三里ニ余ル者二ケ所モアリ短キモノニテモ五六丁ニ下ラス而シテ
深キヨリテ航通スルニハ他所ヨリモ甚タ易シトス
「ヒンガニ」ハ支那ノ「ゴビ」沙漠ノ奥処ヨリ起リ満洲ト蒙古ノ分界ル山ヨリ流ル

チェドルエキー」氏ノ蒙古記行ニ見ヘタリ此山脈満洲ヲ黒龍江ノ左岸ヲ趨ヘテ
魯領ニ入ル故ニ此ノ峡ノ斯ノ名付シナル由但シ山ノ高サ三百尺ヨリ六百尺
ヲ過ル者ナシ名實ハ「サンドストン」及「ケレイスレート」ニ似タリ「ラニート」「バサルト」ニ
非ス岩ノ「ラハ」等ノ見ユ流レタル船ヨリ認ムルニハアラサレト明カナリ
但シ「フリエトニック」又ハ「オルガニック」ノ地質ニハアラサルト明カナリ
峡中不断両岸ノ樹ノ見ルニ大ノ抵柏木ノ如キヨク似タル樺モ亦タ漸ク柏木ノ皆無ニ
至ル程ニ疎ノ者稀ナリ之ヲ訊スニ船ニ積ム大ナル薪ハ江ヲ溯シ得ヘシ家屋及船
材等ニ適スヘキ諸樹枝稀ナルヘシ新ニ出来タル独リ
今朝我船「ヒンガニ」峡中ヲ過キシ時魯岸ニ一汽船ノ山岸ニ掛シテ動カサル者一
隻ニ逢ヘリ「ウオルク」狼ト号スル汽船ニシテ「アムール」社ノ有リ甲板丹脚船ヲ
卸シテ彼ノ船ニ赴キシカ暫クニシテ帰船シ再ヒ拖鋼駛走セリ彼船ハ水壜（ボヤ）ヲ
出テサルヘシ船客ハ「アルゲン」ト云フ他ノ汽船ニ逢テ輿ヲ移リタリト云フ

午后二時午飯ノ中昨日「ミハイロフ」ヨリ「ブラゴウエスチエンスク」ノ鎮台電信ニテ「アセトリーナ」魚ヲ予ニ送レヘト命シ九ノ村吏雷神氏ノ舩ヘ持来リシモノヲ喰フ味甚佳長サ凡ソ下三尺許アリ予兼テ時魚必ス北海道石狩「テレホ」等河ニモ在ルヘキヲ思ヒ居タルニ今其形ヲ熟視シ且ツ背筋通リ三條ノ鱗ノ数ヘシニ一条毎ニ三十五個アリ食机上ノ話ニ此事ヲ指出シタルニ甲必丹ノ説ニハ大タ「アセトリーナ」ハ鱒ノ数増加スヘシト云ヒ此説ヲ「ペーテルソン」氏及「ポール」人其氏皆一可致シテ云フ小魚ノ背骨モ大魚ノ背骨モ其数増減ナキヲ以テ「アセトリーナ」ノ鱗モ同シク道理ナリト論シ出タリ予側ヨリ添言ヲ曰ク小児ヲ大人モ手足各ノ数異ナラサルコトナシト甲必丹黙止ス但シ甲必丹ハ勿論舩中ノ人モ此種ノ心得ノ者ナク只思ヒ付キヲ言ヒ遣ハスノミノ予曽テ二十五年前石狩ノ舩道セシ時河数ノ網羅本日ヲ暖気ニテ午前五時ニ甲板上ノ寒暑計既ニ列氏十一度ノ示シ午後ニハ十六七度ニ昇リ南ヒテ風モ「ブラゴウエスチエンスク」以来キワダテテ暖気ニナリ食事ノ時此事ヲ衆ニ問フニ南ニ寄タル故ニテ「アキレデンタル」ニアラスト甲必丹ノ思ヒ居ル人ニ惑ヒヲ与タリ天気ニ付キ前十一時ヨリ晴ニテ全ク好天気トナリ午后猟過セシ処ヨリ「ヒンガン」峡以来ノ両岸英ニ山ヲ或ハ相ヲ低ノ河幅二十丁ヨリ十四五丁ノ処ヲ溯筋長サ我三里ニ及ヒ所アルヲ見タリ「ニコリスキ」附近ノ鉄鑛ニハ別記ヲ書入スヘシ鵜但シ今ニ至ル迄何人モ下ラス

七ノ

夕六時半一小舩ニ泊舩セシ十一時半前遠ノ少シク明カナルニ乗シ一月三日再ニ纜ヲ解テ馳走スルヲ碇泊セシ処ハ「クワレニナ」ト「松花江(スンガリ)」ノ合スル口ヲ経過スヘシ「スンガリ」ハ満洲ノ内部ヨリ「ウニユコナ」ニ河ノ「アムール」ニ落ルニ口ヲ経過スヘシ新中「スンガリ」河ニ通シ貿易ノ一要路ヲ為セリ聞ク所ニ拠ハ

現下「ハバロフカ」ニ住ム魯商「プリスニン」氏ハ三年前ニ沿河ノ肋ヘ流船ニ貿易品ヲ積テ
重ナル繁昌ノ府ニ達シタレバ支那政府ノ妨ケテ積セル由本年四民尚一面
識貿ノ為メ河ニ船ヲ遣ハセシ由其景況ハ「ハバロフカ」ニ着ノ上吻ニ
ヲ乗ル但シ「ハバロフカ」ハ明日中ニ達スベシ

○「ヒンガン」峡ノ記事ハ「ロカテリノ」ニコルベキ」ト鉄鎗記事ヲ加ヘテ増補
スベシ

二十一日

晴天ニテ風ナク暗気ハ朝六時甲板上ニ慶気ヲ見ル拂暁夢幻中ニ
事輪ノ轉ル処カニヲ聞ケリ蓋シ夜来碇泊シ一路ニ駛走シ一昼夜相本ノ緑ヲ見ヨリ僅朝起
ルシタルヘシ其ノ證ニ一時ニ甲板上ニ騒ギ盛リテ我ニ二十丁餘ニ至ル処少キ久
紙路ヲ見渡セバアムール川ノ両岸ハ大ニ廣マリテ我ニ二十丁餘ニ至ル処少キ久
而ヲ高峰基タ多ク両岸共ニ平原ニシテ遠方ニ高カラヌ山脈北西

ニ向テ走ルヲ見ルニ初ヲ魯岸ハ前述ノ如ク漠々タル平原ヨリ但シハアムール川
此辺ノ真岸ハ高松ニ七八丁ヨリ又ハ二十丁ヨリ又ハ其ノ五
ノ岸ヲ為ス者多キヨリ只島嶼アルヲ以テ其ノ嶋代ヲ五

午後二時「スパスカヤ」ノ湖ヲ過ル「ウスリー」「チュルカ」山ヨリ
約我十三里ノ距離ニ見ル此ノ処ヨリ「アムール」ノ一流ノ嶋嶼ノ間ヲ流レテ「ウスリー」
河ノ「カサケウチ」ヲ達スル而テ本流ハ即チ「スパスカヤ」ヨリ「ハバロフカ」ニ向テ澄筋ヲ為ス其距
離四五「ヨジェン」許ナリト云フ故ニ「スパスカヤ」ハ
三角
銳角ノ△状ヲ為セル辺ヲ「アムール」ノ両岸ヲ
モアルヘシ舩路狭ノ我三里モ一直線ヲ為セリ此処ヲ過ル時「プリスト」ノ汽
舩（米国ニテスラニ即チ革輪ノ舩後ニアル者）一隻機械ヲ積ンデ碇泊スル者アリ
昨日ノ「ニ係ル云フ所是甲必丹ハ本舩ヲ江ニ其舩ヲ盗ベ縛シテ「ハバロフカ」
迄連行ケノ約ニ百「ルーブル」ヲ江ニ徴罰ス故ヲ以テ我舩ノ遅ヒ
即チ盗行ス故ヲ以テ我舩ノ遅ヒ

甚タ遅ク多分六時頃ニアラン大「ハバロフカ」ニ達スル筈サルベキヲトナリ

夕八時頃「ハバロフカ」ニ着ス晴天ナリト雖暗黒ニテ四方ヲ弁ズル能ハズ只岸上人家ノ燈火ノ見ユル頃心高山岸ナルノ知ル「イスプラウニク」及「アムール」社ノ機械工場ノ頭取ニテ名ヲ魯ノ海軍機関方(士官)某江下頭取ト記ス姓名ハ芽来訪スル筈ノ裏面ニアリ云ヲ本夜「ウラ」ノ汽船ニ乗換ルトモ明日ナリトモ只着ヲ急ニ依リ且ハ明日ノ解纜モ亦然リトノ事ナルヲ以テ朝ヲ以テ「ウラ」ノ汽船ニ移リ而シテ正午頃ニ接続ノ方都合好シト著ノ渠乃チ着ノ事ノ如クセント著ス「ストレチェンスク」ヲ発シテヨリ九日ニシテ着船セシ訳ナリ

澪前ハ黒夜陶舟サヘスレバ決シテ乗リ難キ処ニアラズ且ツ我船ノ往過セシ処ニシテ甲板丹ノ称セシ一番浅キ処モ(即チ始メテ「アムール」ニ入リシ日ニ通レリ)五尺ノ余ヲ余リシ次テ水入ニ戻ヨノ船ニテハ跪ク梅ラベキ程ノナレド而シテ澪筋ノ真縦ニ毎日祀セシ船ノ十五六尺ノ汽船ニテモ通航セシ難カラン

又両岸ハ蒋ノ富ミ水ノ清クシテ魚族ニモ亦富ム実ニ亜細亜中ニ於テ指スベキ一大良河ニシテ欧洲ノ「ダニューブ」北米ノ「ミシシッピー」ト生ズル比較ニ得ル者ナリ魚ノ数百年前ヨリ注目シテ遂ニ之ヲ富源ノ掌握セシモ尤モ稚ナルヨリ況ヤ「シベリヤ」ノ膏腴ニテ金土ニ富ム此ノ花ヲヤ又況ヤ満洲ノ内部ニ通ズル松花江如キ一良河モ亦本江ニ流レ込ムニ於テヲヤ

著船前水夫ヲ禁錮并セテ十三人ニモ亦一顆ノ「ルーブル」花ノ与ヲ楽ヲ一日甲板上ニ立テ礼ヲ述ベ甲板丹亦前ノ如ク注意ヲ深クス

廿一日

雪サシ夏ニ暑気甚タシケレド秋冷一瞬間ニ催ス寒ノ候ニテ葉実ノ変ニ先ヲ争ヒ可ナリ「ニコライエフスク」ハ寒四十度ニ達スト雖凡ナレド

廿二日 晴

五時半起キ甲板上ニ出ヅレバ「ハバロフカ」ノ景色ハ開窓ニテ甚タ快ヨキ覚ヲ是ヨリ荷物ノ「ウラ」行ノ汽船ニ移スヲ以テ船主ニ戒船ニ整ヲ付タルナリ移了リテ「ウラ」行ノ船

ニテ茶ノ飲ニ決リ頭取ノ為ニ何持小車二輛ノ持チ来リテ何方ニテモ同行セント言フニゾ弥ヽ頭取及甲ハ丹ト三人ニテ市街ヲ通ヲ抜ケ「ハバロフカ」ハ烏蘇里黒龍江ノ合ス燕尾状ノ股ニアリテ岸ノ高サ約拾五丈許ヲ人家ハ五十軒斗モアリシ低岸ニモアリテ市街ハ低昂頗甚タシク坂ノ上下アリト雖眺望甚佳ニシテ要害(貿易ノ為メ)ノ地タレハ尚永ク逗留アラン事ヲ願ヒシ何ヲ(揚場トセシ)「チロ」河ノ思ヒ出モ登陸スレハ木ノ階子ヲ高岸上ニ造シ(他ノ処ヨリモ市中ニ造シ行ルヽ)階子三ツ二拝ノ処ニ(エンガワ)縁側様ニ通ヲ横ニ行クヲ三十間許ニテ又本板ニ階ヲ一ノ府ヲ以テ上ニ達スル処ノ縁側ニ始テ又同種ノ樹四五本モ側立リ処々ニ其蔭タル快シ偖茶ヲ飲中ニ於テ名ノ聞キヒ甘リシ本年「スンガリ」ヘ行キシ一商「フリユスニン」氏ノ家ヲ訪フニ夫婦共ニ悦ヒ迎ヘテ茶酒ヲ出セリ予因テ先ツ本年「スンガリ」ヘ赴キシ結果ト其ノ地様子ヲ吟味スル左ノ如シ

地理

「スリガル」河ノ「アムール」ニ注ル口ヨリ河上ノ「サンシンチャン」迄ハ三百六十「ウェルスト」ニテ水船一時ニ大「ヨルスト」ノ早サニ進ム(同府ハ松花江ノ流入「ムダンチャン」ト「ユーケヘン」ト河間ヨリ人家約三千軒許リ同府ヨリ二百四十「ウェルスト」ニテ「バヤンスース」ト云ヲ新府ニ達ス「サンシンチャン」ニ府ヨリ此府迄ハ一昼夜ノ間ニ七「ウェルスト」ヲ行ク故ニ流ノ緩ナル処ニテ舩行ニ便リト云尚府ヨリ先キ行ケバシヲ深クシテ舩行ニ便リト云尚先キ行ケバシヲ舌ハ知ラスト云フ大船ハ食水ハ府ヨリ先キ行ケバシヲ舌ハ知ラスト云フ何程迄行ケ得ルヤ不知三ツ目ノ「ヨルスト」ノ距離ニテ新府ト見ヘ人家ニハ「スンガリ」河岸ヨリ十五「ウェルスト」ニテ此府ハ「スンガリ」河岸ヨリ十五「ウェルスト」ニテ「サンシンチャン」府程ハ大ナル人家ニハアラント云フ但シ「サンシンチャン」府程ハ大ナラスト云フ

政黒

「ブリユスニン」氏ノ船「サン、シンチヤン」ニ府ニ達セシ時支那ノ地方官来リテ貿易ノ妨ケ
ト為ル河上ノ汽船ノ許サス、云ヘリ「ブリユスニン」氏ハ其役人ニ向テ然ハ此紙面ノ其
所ノ書スヘシトテ「パスポールト」ヲ出セシニ渠ハ書ク能ハス依テ「ブリユスニン」氏ハ
然ハ禁止ス可ラス調ルナレトテ先進ニ遂ニ「ハヤンスース」府ニ達セント云フ此府ニ於テ意
外ナンテ遠トシ「佛国ノ」「ミッシヨナリー」「チヨセフ、ナリシヤン」人名ナル者十年以来此地
ニアリテ宣教シ来リ大ニ貿易ノ助ケヲ為セシ是ナリ「ブリユスニン」氏ハ此僧ノ字ヲ
持チ来ルヲ見テ其字ヲ見紙背ニ自書セシ名ヲ見ルニ「チヨーセフ、ナリシヤン」ト認メ
アリ「ヂスウヰート」僧ノ深ク「ロナルヂー」ハ実ニ驚ノ堪ヘサリ渠等ヲ朝鮮
ニモ入リテ今ニ尚存死ノ胃ヒテ顧ミス

貿易

「ブリユスニン」氏ハ穀類四千「プード」餘ヲ「ハヤンスース」府ヲ貿易ニ来リ其品物
ヲ一見シ並ニ其価格ヲ尚ヒニ同氏ニ告ケ所左ノ如シ

黒麦	同	価	八十七「コペーキ」
粟	一「プード」	〃	六十「コペーキ」
小麦	同	〃	三十七「コペーキ」
裸麦（カラムギ）	即チ水鍋ヲ作リ又麦酒ニ製スル麦	〃	三十三「コペーキ」
稗		〃	七十「コペーキ」
麦粉（ムギコ）		〃	壹「ルーブル」六十「コペーキ」

帝国ノ仮政策ヲ積ミ来ラサルヲ以テ之ヲ購ヒ入レ若シ此一事ハ事ガ日本ノ「アムール」河筋ヲ経テ満洲ニ産スル豆ヲ魯ニ貿易セントスル望ヲ大ニ増シタリ予ハ同氏ニ事ガ浦塩港貿易事務官ヨリ見本ヲ送ラント
約セリ

○「アンドレイ、プリユスニン」氏ハ「ザバイカル」ノ人ナリ「ハバロフ」建立以来此地ニ来住シ
今二十二年ニナレリ齢六十許ノ老人ナリ同氏ニ依頼ノ諸般ノ取計ヒニ依テ

サレ氏「ウリ」地方ノ「パンツェル」獣皮一枚ヲ所持セリト云ヲ出セリ其皮甚美ニテ四足類尾全ク備足セリ其價ヲ問ニ予ニ送ラントス云ヲ予固ヨリ之ヲ辞ス固ヨリ二十五「ルーブル」ヲ得レト云ニシテ能ク家ノ毒トハ思ハレヌニ付而ヲ二十五「ルーブル」ヲ以テ之ヲ買得タリ同氏ヲ予ニ写真ヲ得ント云ヲ能ク懐中ニアリシ一枚ヲ与ヘ同氏自身ノ写真一枚ヲ予ニ送レリ同氏自筆ヲ甲必丹武筆ヲ以テセル写真ニシテ其ノ娘ノ如キ同氏ハ娘ノ「パンツェル」ヘ来リシ時ハ僅ニ百「ルーブル」ノ資本タリシト頭脳明晰ニシテ先ヲ見ルヘキ如ク絶世タル魯種ニシテ失婦其ニ色黒ク髪暗黒ニシテ骨格高カラス殆ト人ヲシテ「ツーグーズ」若クハ「ブリカト」ノ一族種カト疑ハシム迄ニ成人ノ娘ハ人ヲシテ心酔セシム程ノ美小艾タリ歳十八歳許出テヲ予ニ面スヲ以テ幕府ノ生ヲシテヤト問ヒニ出テ暫ク考ヘタリ返事ヲ予ニ与ヘ楽ヲ園中ノ盛ナル花及草花等ヲ摘セタル「ブケット」ヲ花瓶ニ挟ミタル使ヲ送レ予其器ヲ留置クヘシト辞セ

ニ間ヲ乃チ要ケテ之ヲ紙ニ送レリ「カヨイト」ノ机ヲ飾ルニ供セリ

「ブリュスニン」氏ノ家ヲ出テヨリ市外ノ地所ヲ兵隊ノ三百人幕府ニ常住スル及「ミリテー」レホスピタル」等ヲ一見シ但シ時間ニ乏シキヲ以テ市内ヘ入ラス其建築ノ見ル皆尽ク作ニシテ基礎石ヲ幕府ノ家材ニ供スヘキ樹モ柏モ石モ澤山ヨリ出ヲ頭取司レル「アムール」汽船会社ノ修船場ヲ訪フ「ダライバンク」「ホニスマレーチ」「ボールベンク」「ホストームハーム」及「スメーデレ」等共計四間アリテ十五馬力ノ「ロコモビール」一個ヲ動スヨリ河船ノ修復ハ是ニモ足ルベケレド汽釜大修復ハ能ハサルヘシ次ヨリ同氏在庁ノ訪ノ婦覧童皆出テ面ス同氏ハ其ノ新婦「ハバロフカ」及「ヒンガン」峡ノ写真等ヲ予ニ恵セラル予「返礼トシテ予大礼服ノ「カビチット」写真一枚ヲ送リ同氏ノ第ヲ長崎ニ数月ヲリテ志賀氏ヲ知レリト語レリ稍久シテ「ベーテルソン」氏ヨリ書ヲ家ニ来リ

夫ヨリ「ベーテルソン」氏ノ招キニ応シ同氏ノ園ニ見ス同氏ハ「ハバロフカ」ニ住ム十五年ニシテ現下「ベーテルソン」氏ト同社ノ「アデント」ヨリ其花園ニ幕府第一ノモノニテ

同氏ハ茗荷ノ花ノ外ニ樹園アリ此ノ内ニ「リンゴ」、李、葡萄等ヲ栽培シ
タルニ皆生長セスシテ枯死スルニ於テ是(コレ)ヲ継穂(ツギホ)セシニ実ヲ結ビ
稍実(ミノ)ル如シ等改良ヲ経ルニ従ヒテ現ニ好結果ヲ得リト雖モ政良セシ野
生ノ李三年ノモノヽ味ニ酸味烈シクシテ喰フヘカラス六年ノモノハ実モ稍大ニシテ
味大ニ甘クナリ葡萄モ甘味増セリ「リンゴ」ハ来ル望ノ如クナ
ルモ其法ヲ尚ニシテ「リンゴ」李等望生ノ者ハ其種ヘ毎年枝ヲ切リ(但シ一年ニ長生
スル即チ切ルニテ特ニ発生力ヲ与ヘルナリ)葡萄ノ如キモ毎年萌芽中ニ付キ
二三ノ芽ヲ残シ其他ハ悉ク断チ而シテ毎年栽(ウ)ヘ換ヘルナリ如是数年ニシテ
実ニ沢山ニ甘クナルナリ同氏六年ノ李菓ニテ酒ヲ製セシ鳥政府ノ役人ノ「オツ
プレスニヨリ自由ニ製造スル能ハスシテ二年来渋ノ貢ニ出ス迄ニナラルモノ
ヲ禁止セラレタリトテ大ニ平ヲ鳴シテ云リ抑モ(切切)献政府ノ下ニハ地ヲ開ク開域ノ
ヲ見ル能ハスト云ヒ件ノ者殊更ニ耳ヲ側テヽ聴キ大ニ驚キタル程事

アレ氏事長キヲ以テ益ニ暑シトニ記臆ニ置キヌ李酒ノ製法ハ九月菓実ノ熟シ
者ヲ大樽ニツメ熱湯ヲ注キテ浸スコト上部ヲ少シノ余ヲ覆フ迄ニ至リ蓋ヲシテ置キ
三月中旬頃迄ヲカン置キ而シテ此液ヲ濾シ若水ト等分ニ和シテ磁ニ貯フレト、其
之ヲ味フニ味甚タ口ニ可ナリ同氏ハアムール省ノ栗ノ未類並ニ種ヲ其ニ送ラニヨリ
幼少ノ者ヲ日本ノ種物ヲ送ラニヨリ幼ス時ハ実ハ巨大ノ大根アリト云フニヅ野葡
萄ヲ以テ漬ケルノ話ヲシ大ニ悦テ必ス試ミント言ヘリ、何如ノ甲冑ヲ知ラサレ
氏ハ唯ニ来テ其ノ所産ノ景色ノ写真ヲ恵与ヲ即チヒガシ峡ノ景「ニコライエ
フスク」府街ハ二景、鳥岸ニ住ノ満洲人ノ家屋及ヒ「アムール」ノ「ゴリド」人種、「アムール」
冬ノ景等ニ皆ハ甲冑ノ騎馬ニ係ルハ「パーテルソン」氏ヲ日記ノ図メ写真ヲ集ノ
居ルノ話シタルニヨルナラン
午後一時帰船ス前文ノ諸商及通訳等皆来ラ別ヲ告ケ「アレキシー」ノ甲冑ヲ始メ
其ノ一二ヲ携リ同二時ニハロフカ」ヲ発船スルヤアイロコ」ノ娘ヲ手ヅカラ草花ニ来ラ切ラ「ケヤト」ト為シ迎
手ニ送リ渠亦面頬頗ル

附録 本日「ハバロフカ」に於て此節網を以て大に
肥へたり我石狩川にて捕れん者に全く同じ但し此魚
「ニコライエフスク」を遡ること七百「ウョルスト」より遠路を経て卵を生ん為に来りし者
に係らんや辺にて往々腹に斑紋あり察するに其味は「ニコライエフスク」にて捕りしもの
に及ばざるべき疑なし但し鮭魚は「プラゴウェチェンスク」府の遡上を上ると云ふ
予頃日現下鮭魚の価大約弐弗半ヤヲ向こ百尾にて四五「ルーブル」に過ぎずと雖ども此者の儘かんぺきは帰船右大国生に関こ船一雲りに来りし
鮭は一尾にて八「コペーキ」と言ひ出でたるも由之を「ニコライエフスク」府にては数年
但し諸人に呼ぶこと鮭の句府の遡き始まり九月
中旬にて終ると其多きは名状すべからず拵て小さな俵網の辺にて捕ふるも
其捕獲多きは塩漬の暇なく腐敗せんとするに至ると云ふ
腐敗等の悪臭にて往々地に醸熟するに至ると云ふ
荷物を引く為めに作りたる小船にて長さ

九十尺幅十一尺食水三尺七寸ノ「ヒヤル」馬力は四十馬力なり「スンガチヤ」と号す「アムール」
汽社の船にて「コピユルガ」より機械其他重き
ハバロフカ府に於て建たるものなり同社は此外に
「ハンカ」と号する二隻の汽船の外に「ウスリ」河に
に「ハバロフカ」と「カーメンヌイ、リパロフ」との間を交互往還するなり「ハバロフカ」より出船
の定日は左の如し

一日　十日　十七日　二十四日

「ハバロフカ」より「ウスリ」の流りて通例の引船九件六日を定限とす然れども「ハンカ」湖風波
頃定にかゝる時は定期の「オブリゲーレヨ」にはなしと云ふ
船賃は上等者二十二「ルーブル」九十五「コペーキ」、中等十三「ルーブル」三十九「コペーキ」に
して荷物は一「プード」に付七十七「コペーキ」なり但し一「プード」とは無慮三十斤餘に上
例に准ず毎日の食事は一「ルーカル」七十五「コペーキ」なり故に「アムール」船よりも二十五

「ベーキ」貸シ此船モ「アムール」船ト同シク上中下三等アリ下等ハ「デッキパッセンゼル」ナリ其便モ「アムール」船ト同敷上等客ハ一「コヨイト」ニ付三「コペーキ」中等ハ一「コヨイト」ニ付四「コペーキ」ノ三下等ハ只二「コペーキ」ノ割ナリ而テ船路長サハ上等ノ客ノ便ニ准ジ二千七百六十五「ウルスト」ナリ

次テ「ハバロフカ」ヨリ「カーメンヌイ、リバロフ」迄ハ我等ノ船ニ引ノ船ハ常ニ其ヨリモ重キヲ以テ船ノ進ム一時間僅ニ七「ウルスト」許ナリ此重荷ト云ハ軍馬九十九疋ノ大ナルバルク」船ニ載セタルモノナリ此馬ハウスリ」ノ右岸ニテ(只シ岸ヲ隔テ、遠ク立テリ)「チコルカ」山ニ出名ノ知レ者ナキヲ予ノ警護ニ護送セル「イスプラウニク」ニ問テ始テ知得タリ我ニ雖モ西ヲ向シガタシ深筋ノ深サハ水夫測量セルニヨリ概略ナレ深ケト見ヘタリ又河幅ハ十二三丁ヨリ十五六丁ニテリ航河一直線ニ長ク其位ヲ我ニ里餘ニモ左船ノ岸ニ魚ノ漁民ノ触ヲ漕スルヲ見ル、

晩六時過ギ又河ニ浜テレトノ声アリ船中甚喧シ出テ之ヲ見ハ既ニ夜昏ニテ糸ニヘカラス甲板ニ垂ル小船ヲ御シテ探検ニタル一見出サス船中ニウラチオストウク」ニ赴ク一官更ノ夫婦ト五歳ト九歳ノ児ノ父ノ体ヘリ共ニ甲板上ヲ駆歩クニ偶マ此船ノ艙ニ架ノミニテ鋼ヲ設ケス甚タ危シト人々思ヒニ若シ矣ナレハ予等「カヨイト」中ニ在テ此婦ヲ我等ト話シ最モ昌中人アリ水ニ陥ルノ声ヲ其婦ハ下テ狂気ノ如クサワギ立テ我等ヲ若クハ五歳ノ児ナラントト思ヒ驚キタルニ二児共ニ恙ナク「カヨイト」ニ入リ来リシニソ先ツ一ト安心シタリ婦ハ安心シタルニ拘ハラス落付ク一小嬰ヲ出シテ嘆キ居タリシカ予ヲ目ニテ嘆カニ歌ト言フニソ予ハ辱ナケレド不用ト答ヘタレハ婦ハ李見生ニ勧メテ云ク是非ヲ安ニ妙案ナリトテ勧メタリ生ハ無心ニ婦ノ言ヲ「スプリツト」ト云フ語ニ深ク

心付スレメ唇ヲ受ケテ之ヲ嘗ケバ固リ砲砂糖ノ如ナレハ生ニ食チ心ナラス涙ヲ浮ベタルモイトオカシ此ノ水夫ハ左船ノ燈ヲ点ジ右ニ点ジトシテ車輪ヲ下ニ洪ナレラ次テ右ノ車ニ撃シ溺死シタル故意ニ水中ニ投ゼシメシニアラザル旨ヲ公表セリ

九時「カサケウイチ」孤ニ泊舟ス「ハバロフカ」ヨリ四十「ウルスト」ナリ

廿三日 晴 午前十時頃ヨリ西北風烈ク強シ

夜月ニ乗ジテ甲板丹ハ抜錨駛走セリ暁未甲板上ニ上レハ両岸ニ依然トシテ平原ニシテ山影ハ昨日モ見シ「チロルカ」山ノ外一ノ目睫ノ遮ルモノナシ天象朗晴ニシテ光自在天暗ク十分許ニテ「シベリヤ」ノ車中ト大ニ異ナリ

午前午后通ノ船路モ支那岸ヲ常ニ低ク山ナク双方山岸ニゴリド」人ノ村アリ漁現下盛ニ魚ノ澳シ割ヲ之ヲ曝シ以テ之ヲ食糧ニ供ス其法全ク石狩川奥ノ蝦夷人ノ所為ニ異ナラス殊ニ風奥桑ヲ逆来ルト漁等ノ網漁船及犬ノ附纏モ様子ヲ殊ニシテ深秋石狩河ノ経過スルノ思ヒヲ起サレメリ況ンヤ駅葡萄等ヲ盛ノ小児ノ跣足ニテ河岸ヲ駈歩ルク等アルニ於テオヤ時候ハスベテ黒龍ノ上部ヨリ甚暖ナル證ヲ葉木ヲ青色ヲ存ゼル者多キニ居リ

支那ノ船我邦「タカセ」位ノ者アリ帆モ亦我ト同ジキ形(木綿ニテ庶ノ如シ)

ノ者双方ノ岸ヲ往来シ「ゴリド」人ノ村ニ船ヲ停ムルヲ附添ノイスプラウニク」ニ向ヲ漁ヲ買ハントスル者也ト又云ク「ゴリド」人ハ魯支ノ属ニシテ更ニ農ヲ勧メサルト全ク我北海道ノ「アイ」ノ如ク豚尾髪ニテ衣服モ之ニ同シケレド骨骼高ク甚タ下品ナル顔色ナリ

漁業我「アイノ」ト一様ナル松小ナル網ヲ用ヒテ斯ク大漁ナル河中鮭魚多キヲ知ルベシ予昨夜甲板上ヲ歩セシ時鮭魚ノ躍テ水上ニ飄ルヲ目撃セリ魯岸ニ点在スル人ノ村(即チ「カザク」村)ヨリ船ニ盛ニ薪ヲ積ミ又引船ノ馬ノ秣草ヲ積込メリ

午後四時風止ム然レ共暖度ハ十度ヨリ下ラズ夜ニ入リ遠ニ夜十時ニ五度トナレリ

九時ニ「ウエニコフ」ト云フ所ニ泊ス電信局アリテ家数モ五十軒アリト云フ電信局長ニ逢フテ此地ノ「マンシュウ」人モ住ミ居ルヤ尋ネシニ「マンシュウ」人ハ一人モ住ミ居ラズ皆ナ魯人ト雑居ストノ事ナリ夕方満人三四人焚火ノ側ニ居ルヲ見ルニ皆衣服結髪色ヲ異ニシ下品ナル様ナレド支那人ト四肢黒ケレドモ骨相異ナルヲ異シカタシ電信長又云フ「ゴリドト」ト満人ハ「ホカラスノ」ト云フ「ホカラスノ」ニテ魯次各ヲ越シタル空気清浄ニシテ冬日ニテモ日光明カニ照ラス事ヲ云ヒシナラン夜ニ入レバ霧深クシテ咫尺ヲ辨スベカラスト云ヒ

本日午後遠ニ見ユル「ウスリ」河幅我五六丁ヨリ十三四丁モアルベク一線ノ流筋ハ往々我二里半餘モアリ斯ク廣曲少ナキヲ以テ大ナル引船ヲ運ビ行キ得ルナリ

両岸共ニ平原クリンカ多ク時遅ヨリシテ魯岸ノ方遠ニ山ヲ見ル

本日午前四時ヨリ午後九時迄ニテ僅ニ壹百粁一「ウヨルスト」ヲ航セリ故ニ時間僅ニ六時間ニ過ギス大ナル「タラシタスニ」ニテ泥濘中ヲ行クニ均シ

本日両岸ヲ見渡スニ樹ハ河柳類多ク思フニ巌迄有用ノ材木ト為スベキ木ナカルベシ平地ニ芦蘆生セリ

国ニ云フ「ニコライエフスク」府附近ハ有用ノ大材ニ富メリト雖政府ハ外国ヘ輸出スルヲ禁ズト

○汽船所ニ焚火ノ周囲ニ居ル満人ノ中一人我等ノ眼ヲ胸ヲ見ハシ火ニ向ヒヲ取リ又後背ヲ裸シテ火ニ翳シ(アブリ)アリ魯ノ水夫ハ渠我等ノ前ヲ憚カラサルヲ咎ムル様ハ王莽ノ風莫ク渠ヲ火ノ方ニ輾近セシムルニ渠甚タ不平ノ色モテ起キ直リテ再タヒ故所ニ踞スルヲ「ルシヤ」ノ「オーラン」ウータ」ニ甚タ相似タリ

廿四日 快晴

朝五時解纜駛走六時甲板上ニ出テ寒暖計ヲ見ルニ氷点上四度ナリ夜ニ入リ夜半ノ時ハ氷点下一二度ナリシナレヘン夜来寒気ノ部屋ニテモ

覚へず朝来色機稍快一枚ヲ重ス、両岸ハ拂暁ヨリ五ニ少シク高キ丘ヲ為シ相樹茂生ス朝十時頃引船中ヘ魚一尾躍入リ目ノ下壱尺六七寸ニテ甚タ太トクルコ「ボラ」ト雖ノ如シ只鰡ハ甚タ細カシ「トスタロフ」ト唱フル魚ノ由十一時頃ヨリ両岸共ニ又六七尺ノ高サニ遮ギル時ニ風全ク止ミ水面席ノ如ク島影ヲ甲板上ニ出テ見ルコト「カヨイト」ニ下リ時ニ筆記スルニ「カヨイト」ハ不相替彼人ノ婦市川ナト「カルタ」遊ヒニ耽リ其側ニ小児二人不断騒シク喧嘩シナクル時ニ机ニ凭レ婦之ヲ叱ルニ非ス「カルタ」ニ身カヽレハ小児ヲ嗾ケテ騒シクセシメ「カールレイワノウチ」ト唱フル声ヲ付ケ呉レヨト「カールレイワノウチ」ハ夫名ヨリ出ル好人物ニテ遠ケキ「カールレイワノウチ」ハ書ヲ妻ノ側ニ積ミナカラ騒ヲ制スルニ「チスプリーヨ」ト不ナカラ嗾キ依然漸積ル大ニ予カ細字ノ日記ヲ認ルヲ妨ケリ加之無心ノ無邪輪モ小児ノ所為ニ似テ人ノ細字ヲ書スルヲ好ミサルヨ本何ヒ迄モ「ツラタユ」中ニテ日記ヲ書ヒヨリハ遂ニ怠レリ〻ニ騎兒ノ中五歳ノ方ハ書ハ常ノ児ノ如ク嗾キテ庭ハ時々「ママ」ノヽト」ト啼ケテ実ニ歳ニ似ヌ啼声ヲ出ス声ヲ次ケニ生テ四ケ月ニナル嬰児モ「アン・セレモニオース」ノ「コンセルト」ヲ始ルニゾ予ハ晩夜モ時ケ目ヲ覚シケリ只ニ予モ亦小児タリ時ハ定テ人ノ眠ヲ妨ケシモヤリタルニ相違ナレト明悲シテ又ト覚ヘス眠レリ斯クヨシナシヲ記シ居ル最中ニ右ノ如ク全ク細字モ認ル能ハサル丁出来セリ他ナシ甲板ヨリ前行モ後行モ如才ナク試ミタレトモ中舟ノ航路ヲ誤ケテ渉瀬ニ乗リ上ケタルニ三分間ハ船動カサレシカ寸毫ニテ動キ出ケリ時ニ十時四十分タリ衆姓ノ顔ニ眉ヲ顰メシカ乍テ又眉ヲ開キテ甲板上ニ下リテ常ノ居所ニ就ケリ此ノ小「アキレデント」ノ姓ハ遠ニ揖ガシテ白若トシテ人食事ヲ為ニ居リシ引船ノ甲板上ニ在ル馬ノミナリシ

午後モ風向相ナラス稍モヤ両岸ノ景依然タリ只ニ雪岸方ハ二三「ヴエスト」ノ隔ケ山アリ又「テド」人ノ村ヲ処々ニ見ル我船其村ニ相近キ処ヲ過ル時望遠鏡ヲ以テ

諦視ㇾ之家迄滿洲人二類シ粘土ヲ以テ壁ニ塗リ故ニ外面ハ全ク我邦下葦ヲ葺ケル屋根ニ似タリ其ノ出入口ハ南向キニ一ヶ所ヲ開キ其ノ大サ縦四尺横二尺位ニシテ入口ノ上ニ煙出シヲ設ケ入口ニハ蝦夷小屋ノ如キ筵ヲ以テ作リタル戸ヲ設ケ人物ノ出入ニ應ジ之ヲ開閉ス其ノ構造ハ蝦夷ノ如ク骨組ヲ建テ其ノ上ニ筵ヲ葺キ其ノ内部ハ蝦夷ノ如ク一間ニ區劃ヲ設ケ其ノ一ヲ寝室トシ他ヲ居間ニ充テ寝室ニハ藁ヲ敷キ其ノ上ニ蓆ヲ敷キ居間ニハ中央ニ炉ヲ設ケ其ノ上ニ鍋ヲ釣リ下ケ薪ヲ燃シテ煮炊ヲ爲ス其ノ炉ノ周圍ニハ蓆ヲ敷キ其ノ上ニ坐シテ食事ヲ爲ス其ノ炉ノ煙ハ屋根ノ煙出シヨリ出ツ

時ニ天全ク暮リ雨象下ル「ウラ」河幅ノ廣キト島嶼ノ多キト澪筋ノ長キ等スベテ昨日ニ異ナル午前雨降ル十時「ニチニハロフスキ」ト云フ孤ノ距ル四「ワルスト」許ヲ前ノ山下（魯岸）ニ船ヲ泊シテ薪ノ積ム時ニアラン社ノ流船「ハンカ」号上流ヨリ来リ我船ノ引船ヲ自ラ引クトナリ是レ亦ノ為メニ行程ノ早キヲ為メ故意ニ引船ヲ自任セントテ奉リシ由ナリ是ニ於テ我船ハ是迄ノ重荷ヲ離シ纔ニ十二里（ワルスト）ノ早サトナリタリ正午魚類ヲ船側船後ニ躍ル孤ニ多ク其脚船中ニ躍入リ来ル者勘カラス時間ニ五尾ノ多キニ至レリ是レ我船ノ車輪ノ転スルヲ見テ大魚ノ己ノ退迯トナン誤リテ水上ニ躍出セリ其状チ鮭魚ニ似テ其大サモ亦日下一尺六七寸許魯人之ヲ「シグ」ト称ス魯京ニテ称スル「シゲ」ト同物ナラン味モ亦異ナル処ナク信ニ難シ午飯ニ此ノ鮮魚ヲ煮片ニ切リ三倍酸ニ為シオニオンノ和ヘシヲ食フニ一個ノ好下酒物タリ但シ魯人ハ奇ナル料理トシテ喰ラヒ又咸雪詩塩ニナシ置キシ鮭魚ノ腸ニ油ヲ加ヘ煮熟シ既ニ少クトモ北海道ノ鮭ヨリ味美シ

是ヨリ先キ一千ワルスト許黒龍江口ヨリ浙リ来リシ者ナリト聞ケリ

午後天全ク晴レ両岸共ニ低矮ノ河幅ノ大サ及ビ澪筋ノ長サ共ニ昨ニ異ナラス唯タ其ノ異ナル所ハ岸ノ長キニ従ヒ我ニ至レル英昏六時日没ヲ見ル迄光悠ヲ我ニ有下漸ニ似テ少シク差ヲ覚ヘ両岸ノ樹木タ指ス可キ者多シ

容平過左船（即「ウラ」河ノ右岸）ニ行クヤイムマト云フ一大河流ノ河幅我ニ千丁許ニ当リ既ニテ又常ノ五六丁ヨリ八九丁ニ狭ク此処ヨリ少シ前ヨリ支那岸ニ支那人ノ家ノ満人ノ家ニ三軒アリテ河岸ニ漁スル家作ハ魯人負民ノ家ヨリモ外見ハ美ナルニ似タリ夕七時「ガラスカヤ」ト云フ孤ニ泊舟スルノ筈ナリシカ一両次目撃ヲ大サヌ

夕八時半頃「クレスチ」ト云フ孤ニ泊舟ス予等見氏ト船長魯人一名ト共ニ登陸シテ「カザク」ノ家ヲ訪フニ亭主ハ流船ニ薪ヲ搬ビ留守タリシ婦及ヒ息等ハ裏ヨリ出ツヽ小児ニ鍬ヲ与ヘ追フニ近ツカシメリ既ニシテ亭主帰来ル来ハ

云ふ事ハ千八百五十九年ニ「ザバイカル」ヨリ遷サレタリト雖モ此地ニ啊及家畜ヲ伴ヒ移住セシ時ハ食物等ヲ尚ホ二箇年ノ間ニ若ヘテ云畑ハ十「デシヤチン」、牛ハ足、馬ハ六足ノ所持セリト雖モ乃チ然ラハ渉ハ改メノ農民ニ比スレハ随分富民ナリト云ヒシニ渠云ク否ニ雖モ「ザバイカル」ノ故郷ニアリシ時ハ馬十六足、牛二十頭其外小家畜モ多ク所持セシ次テ肉食モシ隨分豊ニクラセシヤウニ思ハルニ移住以来ハ口ヘ入ル粟トナレリトテ甚タ感慨ノ口調アリ渠最初ハ「カルトツフル」「リバ」等作ル麦豊年ニハ一「デシヤチン」ニ付百「プード」ノ得ニテモアリシカ年ニハ十「プード」ニ過キス平均四五十「プード」ナリ「ヤリウア」ノ方ハ黒麦ヨリモ遥ニ好ノ為メ未ダ肥ハ全ク用ヒス二年位ニテ地ノ代ヘテ種ニ云ヒトヲ此地ニハ密アリテ家婦ハ黒「パン」ト蜂蜜トヲ出セルヲ以テ高ニ高主云ヲ家ニ高フニアラズ此辺ノ家ニ生ル白樺ノ枝穴中ニ巣ヲ造ル蜂ヲ取ルナリ蜂ノ居ル穴ヲ「ボド」ト云ヒ予ハ本日白樺ノ伐リ倒シヲ密ノ価ヲ問フニ如左

密 一「プード」 七「ルーブル」ヨリ八「ルーブル」位

蜂 一行 四十「コペーキ」

予又食物ノ尚ヲ遥食ハ魚、黒「パン」「カルトツフル」「リバ」等ニテ肉ハ祭日ニ食フノミト又塩ハ何方ヨリ得ルヤ尚ホ大村落ヘ宿ヨリ「カザク」移民ノ為メニ設ケシ塩蔵ヲ出スト雖モ夫レハ遠キテ要求ルナリト山猟ノ為メヤ尚ホ問ヒシニ支度ノ少シク和ラテ飲ムヘキ迄モ「ハドロカ」迄ハ半周ヲ越ス大根ヲ煮テ其小片ヲ(約四寸五分許)一ヲ得テ試ムルニ「カブ」ノ如クニ微密ニテ空ナシ味佳辛味ハ十分アリ、家ハ丸木製ニシテ「アレーナ」ト云ヒ樹ヲ作ル天井ニハ土ヲ少シク載セタリ壁ハ白「亜」ニテ塗リ床ハ白「亜」ニ近辺ヨリ取来リシ子「ベチカ」ヨリ一見スルニ把ニテ居間

(窓間、座間トモ名付クベキハ一間ノ板ニテ壮切タルヒナリ)ニ九ル二娘二子息一人ノ外ニ妻ト老婆一人アリ家具トテハ木製ノ粗末ナル風床(蚊帳)ノ外ニ何モナク甚タ貧窶ニ見エ子息ハ親ニ似テ顔色正シク丈高ク好男子ナリ歳ハ漸ク問ニアヅサリシテ居ルヘシ名ノ高モ亦進リ亭主側ヨリ言ヲ曰ク八歳ナリト女房ヒカヘヨリ言ヲ曰ク十歳ナリト一見ニテ実父母ノ従ニ斯ク無闇ノ無闇ノ知ラルモ深ク異ムニ足ラヌ事思フニ此児ハ十二歳許ナルヘシ予側ニ来レト云ヘドモ来タ曾テ高貴ノ人ニ面セシナキヨシテ斯クオビヤカシナリト或ハ恐ラク又魯貨ニハルーブルノ亭主ヲ始メ待遇ノ礼ニ差ヘ并ニテ密蜆少許ノ求メニ夫婦共ニ式二ハルーブルニ驚キ先ツ体見待タリ老婆ハ大根ヲ予ニ呈セント前ノ銭児ハ

予ノ来ニ因テ白亜ヲ採来リ亭主云クヤヤ此ノ辺キユルク」樹極テ多キ於是予ハ渠ニ鉄ノ持チテノ燭ノ提テ夜中ヤヤ能ク能ク」ノ葡萄ノ茎一本ヲ見出シ渠ニ堪探リシメシニ根十分ニ生リシテ江ヲ棄テリ

同云ク近傍難ハ稀ナリト雖モ熊ノ麋ノ出デ家畜ヲ害スルヲ本日迄ニ毎セシ二千二ハイロフスカヤ」弾ニ住ム一カサク」酔客虎ノ為ニ二叶持ノ馬五疋迄奪去ル人ヲ為ニ之ヲ官ニ訴ヘ官依テ八十ルーブル」ヲ与ヘタリト

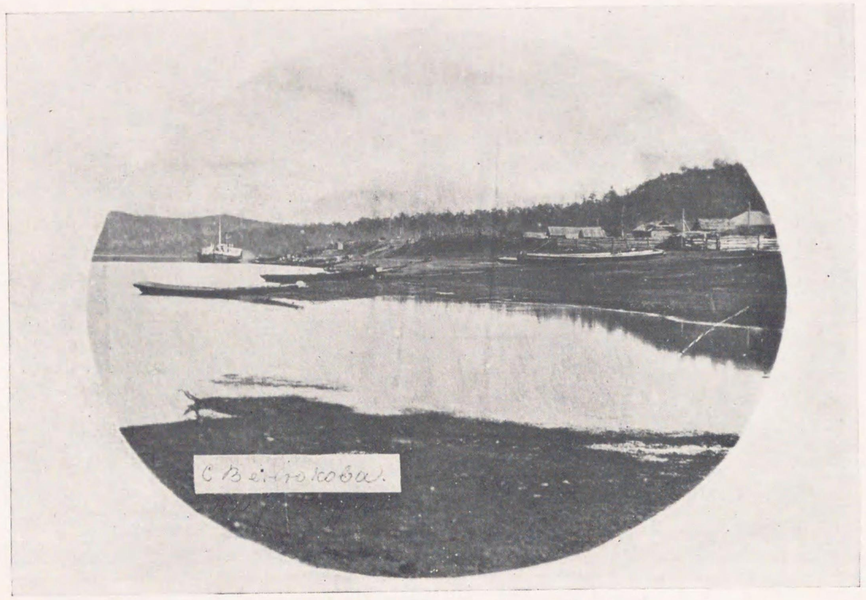
廿六日　快晴晩方少曇

拂暁援錨駛走天象朗晴浩気暢暢ト異リテ我志丁寧ニ狭ケリ漸ク筋ノ長サ十丁ニ過キサル者アルニ至リ然ルニ両岸ハ共ニ平原ニテ只ノ高山ノ脈蜿蜒スルヲ見ル察スルニシホタアリニ山脈ナルヘシ之ヲ甲必丹及附添役人ニ問フニ誰モ知ル者ナシ西年「スンガチヤ」河ノ水ハ内ヘリ」ノ流ル際ニハ「スンガチヤ」水濁リ(マハンカ)湖ノ

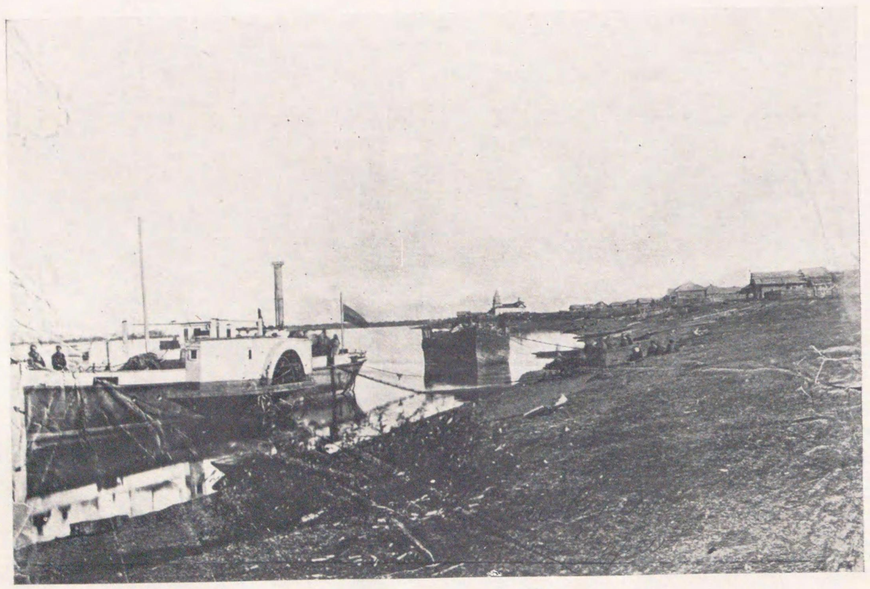
渚キト「スンガチヤ」河岸ノ鉱工ノ商為ナルベシ」ト云ヒ河水清クシテ到底色ヲ今テリ
既ニシテ小舟ト河ハ左舷ニ於ル我船ハ「スンガチヤ」河又ハ「スンガチヤ」河ハ右岸其地
ハ幅僅ニ我ガ十間ヲ十五間ニ過ギス而シテ屈曲ノ極テ甚シキハ轉瞬間ニ太陽
ヲ前後左右ニ見ルヲ以テ知ルベシ宜ナル哉八字河ノ名ア其屈曲モ極テ短ク
去抵我ガ壱丁半ノ常ト甚シキ之ヲモ短キ処アリ只濃筋(即チ全河)
ハ十二尺ヲ減カラス(処トシテハ十二三「サーゼン」深サアル処モアリト云フ)而岸ハ共ニ
平原ニシテ支那ノ方ハ高低シ露岸ノ方高サ十二尺餘ノ処ニハ「スタンチヤ」アリ
柳モ「スンガチヤ」河ノ渡筋ハ二百七十五「ウルスト」ニシテ主路ハ僅ニ九十「ウルスト」ニ
過ギスト云フ之ヲ以テ其河屈曲ノ甚シキヲ知ルベシ予ハ未曾テ斯ノ屈曲ノ
甚シキト深キ小河ヲ見レドナシ〇午前十時「ブーセ」ト云フ駅ニテ(ウスリ河岸)ニ
テ瀬脇子ノ電信ヲ待タリ
夕七時半暗黒ナルヲ以テ泊舟ス水夫等皆舟ヲ陸ニ
ノ釣レリ

廿七日

朝五時半舟艙ヲ甲板上ニ出テ寒暖計ヲ験ニ寒暖下零二度ナリシ両岸ノ
低サ僅ニ三尺ニ過ギス河幅ノ水ニ垂ルト甘ノ多迫ノ為ニ稍寒ク外ノ別ニ見ル
ベキ者モ仰見ル天晴ニ就鳥高ク飛ヒ人烟両岸共ニ之ヲ見ス如斯
事早数ヨリ夕九時半「ハンカ」湖ヲ距ル事僅ニ一里ニ至ル迄更ニ変ル事ナシ
「スンガチヤ」ハ斯ル異常ノ屈曲ニシテ加之河幅七間ヨリ十三四間ニ過ギス而ニ
個ノ舟並ニ行ル能ハサルヲ以テ行通ノ甚タ困難ナリ行ノ将モ順流ニ沿ヒ「オラチオスト」ニ
ヒ行ノ将モ順流ニ沿ヒ比ノ浦ヲ以テ比河ハ「オラチオスト」ヨリ
黒龍江迄南ノ助ケヲ為ス迄ヲ迄ヘシ又魚屋ノ方ニテモ沼地ニ多キ故
テ鉄道ヲ敷ク迄ヲ迄ヘシ尤モ此僻地ニ能ク猟師ノ外ハ地理ニ明カナラ
者ノ従ヲ聴ク事ヲ能ハス膳備ヲ容ス



「ウエニユーコフ」ノ黒龍江砂洲



「ウスリー」河上ノ「コズロフスカヤ」驛

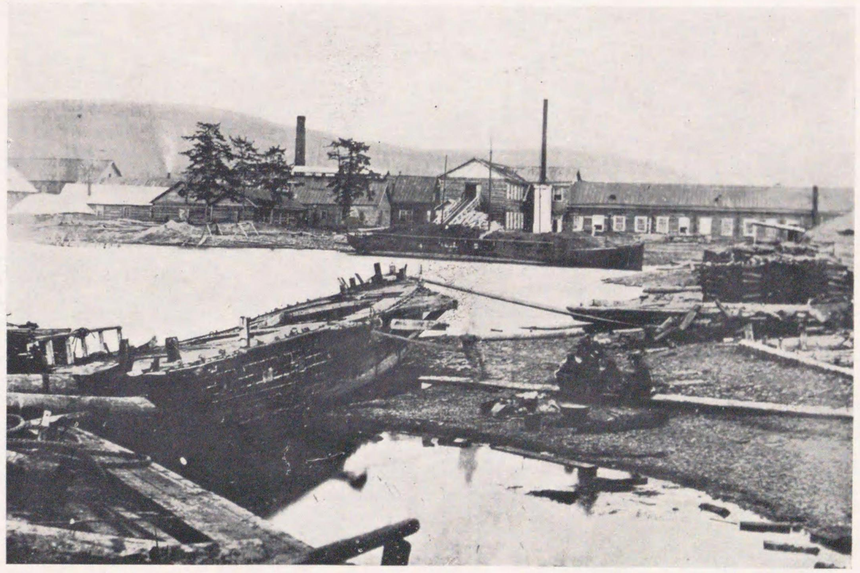
其ニ祀ル処ノ多ク孔ヲ穿チタルバンカ湖ノ出口ノ支那岸ノ方ニ船ヲ繋ギ艸ノ積ミ而シテ風模様ヲ待ツ

此地ノ附近ニ住ム漁人ニ名来ヲ云フ者ノ一老「ユアート」ト水ヲ汲ムヲ見テ之ヲ捕ヘ多ク卒薬ニ其獣ノ膏ヲ煮テ之ヲ飲ムヲ問ヒシニ三四年ニシテ膏ヲ煮ント云フ即チ膏ヲ之ヲ飲ム事多キ為ニ花モヲ黒毛多キ為ニ稀ナル老「ユアート」ナリ

廿八日快晴

朝五時招鍋「バンカ」湖ニ入ル「バンカ」湖ハ基タ洲キ湖ナリ江ヲ渡リ立ツテ常ニ基タシ概ネ深サ僅ニ二「サーゼン」ニ過ギヌ由

「ニコラエフスク」ノ大通リ



「ニコラエーフスク」ニ於ケル機械工場

（写者推スルニ
前記通リ廿八日朝五時抜錨「ハンカ」湖ノ大型帳表
紙ノ裏ニ左記ノ文字アルト旅費明細書トニ因リ推スルニ「ハンカ」湖ノ横断西南
岸ノ「カーメニルイ、ボローフ」ニ着セル処ヨリ馬車ニテ独走暁八時過キ「スッレチナキ」
ニ着茶ノ飲ミ又ヨリ「ヴナヨースナヤ」「ヴレビンスカヤ」ヲ通リ

二十九日

朝五時「ニコリスカヤ」着「バラノフスカヤ」ニテ顔ヲ洗ヒ茶ヲ飲ミ「ラヅドルナヤ」
ニ至リ雨ヲ避ケ「スイフン」汽船「スイフン」号ニテ二時十五分前「スイフン」河ヲ
独走スルコト五十五「ウョルスト」ニテ「レチノイ」ニ着セル処ニ時十五分軍艦「アレッ
クス」号ニ乗移リ三十「ウョルスト」ヨリ航海シ五時半「ラヂオストック」港ニ着シタ
ルモノナルベシ

三十日　浦塩滞在

十一日　浦塩滞在

十月二日浦塩出帆同四日夜北海道小樽港着、夫より札幌に至り逗留も再び小樽に引返し銭函に行き小樽より汽船にて箱館に出で十月十九日に箱館より出帆同二十一日夜海路横浜に着港同夜直ちに東京に帰りたるも也

（大型帳表紙ノ裏）

左記

クマラ河　支那ノ「スマトーグル」人来澳　スカラカルサコワ

ボヤコワ村

十八里
モー
二十八里
「スウレチナヤ」ニ泊ス
十六
「ウチヨーフスナヤ」ニ泊ス
十七
「ニコリスカヤ」
廿九日朝五時着
同日
十五「バラノフスカヤ」ニ泊ス
「ラヅドリナヤ」ヲ「チイ」迄ハ
海上三十「ウヨルスト」

十六
「ラヅドルナヤ」ニ泊ス
三十五分宇品ヲ「アブレックス」号ニ乗移リ
五時半
「ウラヂオストック」港着
「スイフレ」汽船「スイフレ」号
三十五分ニ十五分ニ独逸午砲
「ウラヂオストック」迄

一、九月三日ノ条参照
「ブリヤト」ト蒙古ハ言語も人種も全ク一ナリ

蒙古語

「ブリヤト」ニハ「セレンゲンスク」「恩貴」「キヤクタ」「通辞」迄蒙古語ニ異ル甚他ハ皆蒙古ト相通難キアルニ至ルト云フ

「ブリヤト」ト書キシハ非ニシテ「ブーリヤト」ナリ

何ト唱ルヤ	ヤモルチレテイ	汝ノ子カ	タナイフブン
此河	イヂイヨホン	汝ノ娘カ	タナイバツグン
此山	イヂイハダ	東道主人	ハヂヤン
村	セレウニク	甚可愛	シゲイドルタイ
汝誰ソヤ	タンデフテイ tander gder	今日	ムヌーウドル
	ナフタイ nagtai	明日	ウグーロ
十人カナリ	サダアイ	昨日	ウスグードル
今一次	バレキテイ	朝	ウドルイシニ

夕　ウドシュー
天気　ハイヒン
月　サラ
時　サク
湯　ハルンヲホ
肉　ミヤハ
米　語ナシ
汝　タ

帽子ヲ冠セヨ　マラハイムデ
年　ゾニ
日　ウヅル
茶　サイ
パン　taka
魚　ザガグン
予　ビ
此人　イチノン

千八百七十五年三月二十二日「ゴーロス」ニ載ス
千八百七十四年「アムール」地方ノ事ニ付テモスコシ
外国船并ニ土艦、官船、軍艦、外一艘モ来ス外国船ヲ輸入セシ諸品ノ外ニアルコ
ールハ一百五十六百八十「ウヲドロ」外ニ名「キヤーメル」「ジン」「シュリコルヂヤル」「ビットル」「ウヰスキー」ハ
并セテ一千六百二十八「ウヲドロ」、「ウラデオストック」ヘハ「アルコール」三千六百五十八「ウヲドロ」其外
強キ飲物ハ十一月迄ニ三百六十「ウヲドロ」輸入セリ、「アムール」河「ハバロフカ」ヨリ「ニコライエ
フスク」迄、人口（外国人ヲ除キテ）男女并セテ八千百五十人、但シ外国人数ハ審ナラズト
雖モ多カラザルベシ
農作物ノ出来如左
冬麦ノ種九百八十七「アードル」ニテ
夏麦ノ種四百三十八「アードル」ニテ

弐千八百八十四「アードル」ヲ得タリ
壱萬四千五百二十「アードル」ヲ得タリ

馬鈴薯ノ種三千七百九十「ブード」ヲ
一体同年ニ不作ノ分壹萬五千四百「ブード」ノ麦ヲ他所ヨリ輸入セリ
〇千八百七十五年四月廿日「ゴーロス」ニ左ノ事ヲ載ス
「ウラヂオストク」ヨリ電報ニ曰ク三月二十九日魯曆ニ海路開ケ初入ノ船ハ石炭ヲ積来リシ
日本ノ北ニテ名ヲ「コケット」ト号ス

記

魯都ヨリ浦潮港迄
旅費総寄高
一 魯貨三千貳百八拾六ルーブル六拾壹カペキ
此金千九百六拾八圓〇三銭

但金壹圓ニ付
魯貨壹ルーブル六拾七カペキ替

魯都ヨリ本邦迄
荷物運搬費
一 魯貨七百六拾七ルーブル
此金四百五拾九圓貳拾八銭壹厘
但前同断

小樽港ヨリ東京迄之旅費

金七拾三圓三拾六錢七厘五毛

三口

合金貳千五百圓六拾七錢八厘五毛

右複本全權公使ヨリ差出候旅費総計書面之通有之候

明治十一年七月廿三日彼得堡府出立東西西伯里通過九月廿九日浦塩港着迄ノ諸入費左之通

一	弐拾二「ルーブル」	「ペテルブルグ」ヨリ「モスコワ」迄一等寝台汽車一人分
一	拾五「ルーブル」	同二等汽車一人分
一	弐「ルーブル」	同汽車「コンドクトル」へ
一	四拾五「ルーブル」十「コペーキ」	同手荷物等運送賃
一	四拾「コペーキ」	荷物取扱人二人へ
一	壱「ルーブル」五十「コペーキ」	「クリン」駅茶代並ニ雑費
一	壱「ルーブル」	「モスコワ」府着ノ節荷物取扱へ
一	七「ルーブル」	「ウラジオストック」へ電信料
一	壱「ルーブル」	二橋書記一等見習へ御用状差立料
一	弐「ルーブル」	「モスコワ」府帝宮案内者へ

一七拾九「ルーブル」
一拾弐「ルーブル」
一四「ルーブル」
一弐「ルーブル」
一五十「コペーキ」
一拾弐「ルーブル」三十「コペーキ」
九「ルーブル」二十三「コペーキ」
一拾九「ルーブル」二十五「コペーキ」
一壱「ルーブル」
一壱「ルーブル」三十「コペーキ」
一壱「ルーブル」五十「コペーキ」
一壱「ルーブル」弐拾五「コペーキ」

「モスコワ」府「ホテル」諸掛（十月二十七八九三日 自由行李物別振）
同所「ガルソン」及ビ下婢共ヘ
「モスコワ」「ホテル」荷物取扱人並ニ駅者ヘ
同所入浴料
「モスコワ」停車場荷物取扱人ヘ
「モスコワ」ヨリ「ニジニノウゴーロト」迄営業汽車一等一人分
同二等汽車代一人分
同前文荷物運送賃
「モスコワ」ヨリ「ニジニノウゴーロト」迄警衛兵一人ヘ
「ステーション」ニテ食料
「ニジニノウゴーロト」ニテ馬車代
同所荷物運送人足賃

一四拾「コペーキ」
一四「ルーブル」
一弐「ルーブル」五十「コペーキ」
一拾九「ルーブル」三十五「コペーキ」
一三「ルーブル」五十「コペーキ」
一弐「ルーブル」三十八「コペーキ」
一三十八「ルーブル」
一壱「ルーブル」九十「コペーキ」
一四「ルーブル」八十「コペーキ」
一拾三「ルーブル」
一拾「ルーブル」
一弐拾八「ルーブル」四十「コペーキ」

同荷物運送人足ヘ
同所庭ニ馬車
同所入湯代
同所「ホテル」上等一人分（七月廿九日三十日）
同下等二人分
同所小使共ヘ
途中賄食物
同茶及ビ砂糖
途中食物賄ヘ遣
「ヨルカ」河蒸汽船一等一人分 但シ「ニジニノゴロート」ヨリ「カル」迄
同二等一人分
同荷物運送賃

一弐拾四「ルーブル」六拾「コペーキ」
一九「ルーブル」七十「コペーキ」
一六「ルーブル」
一壱「ルーブル」五十「コペーキ」
一三十「コペーキ」
一三「ルーブル」
一壱「ルーブル」
一壱「ルーブル」六拾「コペーキ」
一壱「ルーブル」
一三「ルーブル」
一二「ルーブル」三十「コペーキ」
一百八十五「ルーブル」

船中諸賄料
船中飲料
船中上等室小使へ
同下等室小使へ
船中規則書一
「カサニ」府迄馬車一輌雇代
「サラトフ」ヨリ馬車一輌雇代
「ペルム」府ヨリ荷物運送人足雇代
同所駅者へ
同所大湯料
同所雇馬車代
馬車一輌買上ケ代

一拾三「ルーブル」四十三「コペーキ」
一三「ルーブル」
一弐「ルーブル」八十「コペーキ」
一四「ルーブル」
一三拾「コペーキ」
一三「ルーブル」二十「コペーキ」
一六拾「コペーキ」
一弐「ルーブル」
一六拾「コペーキ」
一三「ルーブル」
一六「ルーブル」
一二十八「ルーブル」八十「コペーキ」

「ペルム」ヨリ「セメニ」迄馬車一輌損料
馬車用塗脂
汽船ヨリ荷物端ケ代
「ペルム」ニテ請待ノ旅宿召仕へ
同所荷物取扱人へ
従者旅籠料
同小使へ
「クラブ」小使へ
焼酎二礒
駅逓ヨリノ小使
「ペルム」製鉄場行馬車
「ペルム」夕飯並ニ弁当料

一五「ルーブル」
一二十「コペーキ」
一百六十「ルーブル」三十五「コペーキ」
但し道法六百七十「ヴルスト」四分一私立駅
一拾壱「ルーブル」
一拾弐「ルーブル」
一五拾「ルーブル」
一五「ルーブル」
一弐「ルーブル」
一三「ルーブル」
一三「ルーブル」
一壱「ルーブル」

「ベルム」警視局ヨリ出張番卒ヘ
馬車用藁代
「ベルム」ヨリ「チュメン」迄馬六疋
「ウラスト」馬一疋附四「コペーキ」ノ割
「ベルム」ヨリ「ヨカチリンブルグ」迄途中食料
「ベルム」ヨリ「エカチリンブルグ」迄ノ駅者ヘ
「エカチリンブルグ」旅篭諸掛
同小供共ヘ
「エカチリンブルグ」入湯料
同所ヨリ附添雑卒小頭ヘ
同附添雑卒共ヘ
馬車及荷物番卒ヘ

一壱「ルーブル」
一弐「ルーブル」六十「コペーキ」
一四「ルーブル」
一三「ルーブル」
一八「ルーブル」
一拾五「ルーブル」七拾「コペーキ」
一拾弐「ルーブル」
一弐「ルーブル」
一弐「ルーブル」
一百五拾「ルーブル」
一弐「ルーブル」
一九「ルーブル」六十「コペーキ」

馬車用蚫買上ケ代
馬車賃代
馬車用脂代
茶買上ケ代
「エカチェルグ」ヨリ「チュメン」迄ノ駅者ヘ
「エカチリンブルグ」ヨリ「チュメン」迄食料並ニ宿料
「チュメン」詰待旅宿ノ召使共ヘ
「チュメン」雑卒共ヘ
同所駅者ヘ
馬車一輌買上ケ代
馬車修復料
薬酒買上ケ代

一四「ルーブル」五拾「コペーキ」
一弐「ルーブル」
一四「ルーブル」
一五「ルーブル」
一百三拾一「ルーブル」四十「コペーキ」
但し道法千四百六十九「ヴルスト」四分ノ三官立驛馬一足付一「ヴルスト」一「コペーキ」割
一四十三「ルーブル」八十「コペーキ」
一四十「ルーブル」九十「コペーキ」
一五十四「ルーブル」十三「コペーキ」
一四「ルーブル」
一三「ルーブル」
一弐「ルーブル」

貯、茶及食物買上ケ代
麻縄買上ケ代
「カンタル」ニテ茶及菓子
馬車用毛織敷物損料
「チュメン」ヨリ「トムスク」迄馬六疋
「チュメン」ヨリ「トムスク」迄ノ駄者ヘ
「チュメン」ヨリ「トムスク」迄ノ食料渡船並ニ雑費
「トムスク」旅籠料
「トムスク」ニテ馬車ニ雇料
同所ニテ入湯料
「ホテル」召徒仕ヘ

一三「ルーブル」
一三「ルーブル」七十「コペーキ」
一六拾七「ルーブル」四拾一「コペーキ」

但し道法五百五拾四「ヴルスト」官立驛「トムスク」ヨリ「クラスノヤルスク」迄馬六疋
五「ヴルスト」ハ一「ヴルスト」馬一足付一「コペーキ」ノ割「ベロヤルスク」ヨリ「クラスノヤルスク」迄百九十五「ヴルスト」間ハ一「ヴルスト」馬一足付三「コペーキ」ノ割

一拾四「ルーブル」三十「コペーキ」
一拾六「ルーブル」六十五「コペーキ」
一六「ルーブル」
一弐「ルーブル」
一三「ルーブル」五十「コペーキ」
一弐「ルーブル」八十「コペーキ」

「トムスク」ヨリ「クラスノヤルスク」迄食料
渡船並ニ雑費
同駄者ヘ
番卒ヘ
羅卒ヘ
馬車修繕料
茶

一弐拾二「ルーブル」
一百八十八「ルーブル」四拾八「コペーキ」
但し通法千〇〇四「ウヲルスト」四分ノ三官立驛一「ウヲルスト」馬一疋弁三「コペーキ」

一三千六「ルーブル」三十「コペーキ」
一三千六「ルーブル」六十「コペーキ」
一五「ルーブル」
一弐拾「ルーブル」
一八「ルーブル」
一弐「ルーブル」
一弐拾「ルーブル」
一拾五「ルーブル」

「クラスノヤルスク」沙金場行人費
「クラスノヤルスク」ヨリ「イルクーツク」迄馬六疋
「クラスノヤルスク」ヨリ「イルクーツク」迄食料
渡船並ニ雑費
同駅者へ
「クラスノヤルスク」請待旅宿呂仕へ
馬車二輛修覆料
「ウヲヂヨストツク」へ電信料
「キヤクタ」へ電信料
「イルクーツク」府請待旅宿「シーロル」呂仕二人へ
同駅者へ
同料理人へ
同下女へ
同洗濯女へ
門番羅卒二人へ
荷物及車番卒へ
羅卒並ニ歩兵五人へ
道中賄食料買上弐
「バイカル」湖渡船
同所馬車二輛渡賃
同船中茶料
同水夫へ
「イルクーツク」ヨリ「キヤクタ」迄馬六疋

但し道法四百十「ウヲルスト」官立驛一「ヴェルスト」馬一疋付三「コペーキ」ノ割

一疋六「ルーブル」二十五「コペーキ」
一疋四「ルーブル」三十五「コペーキ」
一四「ルーブル」四十「コペーキ」
一疋五「ルーブル」
一六「ルーブル」
一四「ルーブル」
一四「ルーブル」
一三「ルーブル」
一弐疋三「ルーブル」十「コペーキ」

但し道法百三十五「ヴェルスト」四名、三官立驛一「ヴェルスト」馬一疋付三「コペーキ」ノ割

一四「ルーブル」

同駅者へ

「キャクタ」ヨリ「セレンギンスク」迄馬六疋

同料理人及下男へ

同騰駅者へ

「キャクタ」街道「セレンガ」河渡船場ニ宿
泉取ノ為メ開立ニ家古人家内ノ者共へ
支那語通辨官へ

「キャクタ」ヨリ「セレンギンスク」迄馬六疋

同駅者へ

「キャクタ」ヨリ「セレンギンスク」迄ノ道中ニ於テ馬
車顛覆ノ時夜中周旋ノ村人等へ
「ダシー」ヘヲーゼロ」行往返馬六疋

番卒へ

「セレンギンスク」請待旅宿召仕之へ

歩兵へ

馬車修覆料

黒田参議ヨリ先拂電信請取
候節ノ拂

黒田参議宛電信差立料

「セレンギンスク」ヨリ「チルチンスク」迄馬六疋

一疋八「ルーブル」十四「コペーキ」

但し道法八百二十三「ヴェルスト」官立驛一「ヴェルスト」馬一疋付三「コペーキ」ノ割

一四十三「ルーブル」三十「コペーキ」
一三十七「ルーブル」三十五「コペーキ」

一弐ヶ於二「ルーブル」七「コペーキ」
一三「ルーブル」
一四「ルーブル」五十「コペーキ」
一弐ヶ「ルーブル」五十「コペーキ」
一六「ルーブル」
一弐ヶ「ルーブル」
一四「ルーブル」
一弐ヶ於四「ルーブル」五「コペーキ」
但シ道法八於九「ウヨルスト」官五駄一「ウヨルスト」馬一疋ニ付三「コペーキ」ノ割
駄者へ
渡船並ニ雑費
「ストレチンスク」ニテ「コペーキ」
一壱「ルーブル」五於「コペーキ」
一六「ルーブル」

「アイチンスキ」砂金場行往返馬四足並ニ駄者へ
「ブーチンスキ」砂金場ヨリ仕ノ者へ
同番卒「カサック」
同駄者へ
「ネルチンスク」請待旅宿「ブーチ」ヨリ仕ヘ
番卒へ
洗濯料
「ネルチンスク」ヨリ「ストレチンスク」迄馬九足
一弐ヶ於一「ウヨルスト」馬一疋ニ付三「コペーキ」ノ割
駄者へ
渡船並ニ雑費
「ストレチンスク」ニテ「コペーキ」
一弐ヶ於七「ルーブル」
一六於「ルーブル」五於「コペーキ」
一三十五「ルーブル」
一七於六「ルーブル」三十五「コペーキ」
一六「ルーブル」
同荷物運送賃
「ブラゴベシチェンスク」鎮台駄者へ
同所中等茶屋昼飯料
黒龍江船中上等食料
一百七拾八「ルーブル」四十「コペーキ」
但シ内九於三「ルーブル」満洲愛琿城鎮台ヨリ附属一同ニ饗応シ品ニ酒等ノ諸入費
一於弐「ルーブル」六十五「コペーキ」
同中等一人
一弐於六「ルーブル」
船人足賃

棒砂糖一本
蒸汽船運荷物運送人足へ
「ストレチンスク」ニテ飲料買上ケ代
「ストレチンスク」ヨリ「ハバロフカ」迄ノ船賃
上等一人分
同中等一人分
同荷物運送賃
「ブラゴベシチェンスク」鎮台駄者へ
同所中等茶屋昼飯料
黒龍江船中上等食料
一於弐「ルーブル」六十五「コペーキ」
一弐於六「ルーブル」

一三「ルーブル」
一八「ルーブル」
一弐拾弐「ルーブル」五十五「コペーキ」
一拾三「ルーブル」三十九「コペーキ」
一弐拾九「ルーブル」二十六「コペーキ」
一拾八「ルーブル」
一四「ルーブル」
一二「ルーブル」
一九拾壱「ルーブル」十「コペーキ」
一四拾壱「ルーブル」四十「コペーキ」
一拾壱「ルーブル」
一六拾二「ルーブル」

同料理人へ
同小使へ
「パロフカ」ヨリ「カーメンヌイ」迄「パロフ」迄汽船一等壱人分
同中等壱人分
同荷物運送賃
同水火夫へ
同小使へ
同料理人へ
同船中上下食料諸掛
「ソカ」湖ヨリ「ウラジオストク」迄馬九疋
艀人足賃
「ウラヂオストック」ニテ夕飯饗応料

一拾「ルーブル」
一弐「ルーブル」
一弐「ルーブル」
一壱「ルーブル」
一拾八「ルーブル」
一拾「ルーブル」五拾「コペーキ」

惣計三千弐百八拾七「ルーブル」大拾壱「コペーキ」

同所従者旅籠料
同小使へ
同所ニテ荷車一輛
同所ニテ馬車賃代
サンパン酒
「ウラヂオストック」ヨリ「ペテルブルグ」へ電信料

十月二日浦塩港出帆同四日夜北海道小樽港着矣ヨリ十月十九日箱館出帆同二十一日夜横浜入港同夜東京着迄之諸入費左之通

一金拾円
一金壹円
一金壹円九十銭二厘五毛
一金六円十銭
一金七円五拾銭
一金三円
一金五円
一金五拾銭
一金四拾銭
一金弐拾三銭六厘
一金拾九銭七厘
一金四拾七銭二厘

函館丸水夫へ
小樽港旅籠料
同所荷物端ヶ並人足代
函館旅籠料
札幌迄同中諸所ニ附添ヒシ開拓使勘
農課馬丁
同断
札幌請待旅宿開拓使小使共
同下等旅籠料
通船所へ拂
小樽港ヨリ銭函駅迄馬一疋
同人足一人
銭函駅ヨリ小樽港馬二疋

一金弐拾円
一金拾五円
一金七拾五銭
一金三拾銭
一金壹円

〆金七拾参円参拾六銭七厘五毛

小樽港ヨリ横浜港迄汽船上等一人
同中等壱人
上等汽車壱人分 但し横浜ヨリ東京迄
下等汽車
神奈川縣馬車駄者へ

育十三日江府細書今朝十五日落手ニ而ハ…ニ而當ベテルブルグ」も始て東京位の広き地形を開く繁華ハ勿論も不自由無之ハ…も南部も進歩するやうニ被感冬ニ而も一番賑敷地ニハ…の頃の時候を日本十月下旬位ニ而とかく雨天多く殊ニ寒き…在ル日本人ニ公使館附属花房書記官始め外三人ニ而も通計五人一所ニ住居ハ勿論手前ニ而ハ…ニ而も四十畳許り一間ハ外ニ寝所十五畳程大金ニ而も…ニ而是ニ六畳許り役所ニ而も五十畳ニ而も都合二、三間其外三間位ニ而ハ…ニ而ハ一ヶ年借家の價六千五百両許りニ而是ニ官費

在魯公使館創立當時在勤員（大正六年三月廿七日岡野義之氏ノ書キシモノヲ写ス）

海軍中將兼特命全權公使　榎本武揚（靜岡縣士）
外務大臣兼二等書記官　花房義質（岡山縣士）
魯語通辨　市川文吉（東京府士）
外務二等書記生　内藤忠順（靜岡縣士）
留學生　寺見機一（岡山縣士）
仝　西德次郎（鹿兒島縣士）

昭和十年五月四日印刷
昭和十年五月七日發行

（實價金四圓）

發行人　東京市大森區北千束町六七五　廣瀨彥太

印刷人　東京市芝區愛宕町二ノ一四　渡邊丑之助

印刷所　東京市芝區愛宕町二ノ一四　常磐印刷株式會社

發行所　東京市芝區榮町十三　水交社構內
財團法人　海軍有終會
振替口座　東京三四一〇二番

昭和十四年一月生

292.93-E76s
1200600587768
集約済 2冊

西伯利亜日記寫 貳 卷